

第5章

資料

感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(59)

(平成27年12月31日現在)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
渡辺医院	鶴見区潮田町3-133-2	501-6457
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
杉浦内科クリニック	神奈川区白楽100-5 白楽コミュニティプラザ3F	402-5650
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647 菅田町メディカルビル1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3 まるあビル1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12 スカイビル21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107 ライフ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鶴養医院	南区宮元町3-55	731-2308
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34 森ビル1F	720-6008
あずま医院	南区清水ヶ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30 サンライズ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ヶ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ヶ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ヶ谷区西谷町866	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
大塚クリニック	旭区市沢町995-11 田口ビル1F	355-5377
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
富野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区谷津町378	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1 大倉山ハイム1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200 菊名レジデンスiapラザ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2 ホームストッププラザ十日市場西館101	989-6388
西川内科・胃腸科	青葉区あざみ野1-26-6	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
岡本診療所	青葉区青葉台1-29-5	981-9541
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
斉木クリニック	都筑区高山1-45 沖商事ビル102	941-0082
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14 ヘルデセゾン1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
川上診療所	戸塚区川上町359	822-5074
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4FB	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉中央南1-37-7	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビルⅡ 1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1 三ツ境ライフB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

小児科定点(94)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
宮川医院	鶴見区北寺尾6-7-19	585-5505
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
川端こどもクリニック	鶴見区生麦5-21-16	505-6670
石井医院	鶴見区生麦5-8-44	501-5531
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央3-19-11	506-3657
はぐ組こどもクリニック	鶴見区矢向5-6-22 飯塚眼科ビル101	717-7220
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4 オルトヨコハマビジネスセンター1F	438-0291
まつうら小児科・内科	神奈川区三ツ沢中町8-6	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
大西医院	神奈川区反町4-27-16	324-2121
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7 東神奈川イーストアーケビル1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
誠友医院	中区山下町113-4-3F	680-1283
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2 小菅医療ビル4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
弘明クリニック	南区通町4-84 メルベィユ弘明寺2F	721-3611
弓削医院	南区睦町1-7-5	731-2653

医療機関名	所在地	電話番号
宮地小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
大川小児科医院	南区万世町2-27	231-4443
小島小児科医院	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1 いずみプラザ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科・アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
上大岡こどもクリニック	港南区上大岡西1-15-1 がオ404-2	882-0810
星川小児クリニック	保土ヶ谷区星川2-4-1 星川SFビル4F	336-2260
おざき小児科	保土ヶ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ヶ谷区岩間町1-4-1	331-2478
横山医院	保土ヶ谷区峰岡町2-118	331-3296
北原医院	保土ヶ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ヶ峰1-13-2	373-6752
おじま小児科	旭区二俣川2-58 大洋ビル2F	361-0212
サンクリニック	旭区柏町97-8	366-6822
川島医院	旭区上白根町891 西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
小林小児科医院	旭区二俣川1-65	361-6116
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区西町6-39	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11 高野第2ビル2F	785-1152
江原小児科医院	金沢区並木1-14-2	773-8533
大久保医院	金沢区六浦南2-42-18	788-6565
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1 長谷川メディカルプラザ富岡2F-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
小机診療所	港北区小机町1451	471-9696
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19 福島ビル1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区新羽町2080-1 メディカルモールプラザ2F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26 MKハイム1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22 ナビウス大倉山1F	542-6915
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3 ダイアパレス鴨居1F	933-0061
ちはら小児クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山町750番地1	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1 土井ビル1F	930-3110
ぽっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2 あざみ野メディカルプラザ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126
武沼小児科医院	青葉区青葉台1-13-13	981-6122
あざがみ小児クリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092

医療機関名	所在地	電話番号
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 トムス有本101	901-6870
あかねファミリークリニック	青葉区あかね台1-17-38	985-6607
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ヶ崎南5-1-10 ノーブル茅ヶ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
都筑メディカルクリニック	都筑区荏田南1-12-16	943-8801
キッズクリニック鴨居	都筑区池辺町4035-1 ららぽーと横浜1F	929-0085
マサカ内科小児科	戸塚区品濃町523-3 マサカビル1F	823-7866
清田小児科医院	戸塚区戸塚町1505-3	861-3015
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2353
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ドリーム小児科	戸塚区俣野町1404-8	851-3661
海のこどもクリニック	戸塚区川上町91-1 モレ東戸塚3F	390-0841
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA1F	869-0311
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビルⅡ1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
緑園こどもクリニック	泉区緑園2-1-6-201	810-0555
はっとり小児科	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 カサ・デ・パティオ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10 サニーハイツ三ツ境1F	360-6080
清水小児科	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわメディカルヴィレッジ内	360-9191
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

眼科定点(22)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 トミヤビル4F	502-0222
豊岡アイクリニック	鶴見区寺谷1-3-2 山田メディカルビル2F	571-5861
安田眼科医院	神奈川区反町1-6-12 リキヘリアンサス1F	313-2022
まつい眼科医院	西区戸部本町51-10	322-6249
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ストーグビル秋山1F	260-6726
池袋眼科医院	港南区上大岡西1-18-5 ミオカM202	842-0380
小野江眼科	保土ヶ谷区帷子町1-12	335-2171
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5-38 FSビル2F	363-1102
洋光台眼科クリニック	磯子区洋光台3-13-5-110	835-0143
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ウィンズ綱島ビル1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ビル1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 アピタ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
木崎眼科	青葉区青葉台2-9-10 第3フジモビル2F	985-3719
仲町台駅前眼科クリニック	都筑区仲町台1-7-12 ブリッジ二番館2F	942-4730
井上眼科	戸塚区柏尾町1016-2	822-2520
とつか眼科	戸塚区戸塚町16-5 ARKビル3F	861-6620
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2 相鉄ライフビル2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	302-6337

性感染症定点(29)

医療機関名	所在地	電話番号
さなだ医院	鶴見区鶴見中央4-2-3	501-1117
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
原産科婦人科クリニック	神奈川区六角橋1-30-4	401-9511
コシ産婦人科医院	神奈川区白楽71-8	432-2525
横浜相鉄ビル皮膚・泌尿器科医院	西区北幸1-11-5 相鉄KSビル2F	311-3208
石橋泌尿器科皮フ科クリニック	中区長者町9-166-1 ソフィアヨコハマ1F	263-0820
公平泌尿器科医院	南区井土ヶ谷下町213 第2江洋ビル4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2 ルス・デ・ルナ1F	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
増田泌尿器科	保土ヶ谷区帷子町1-30-1 クボタビル2F	340-2667
浅井皮膚科クリニック	保土ヶ谷区帷子町1-14	334-3412
二俣川レディースクリニック	旭区本村町101-3 第7ハレス桜咲	360-2875
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1 プラサSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
片桐レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
大倉山レディースクリニック	港北区大倉山3-4-31 ヒルズ・カモ1F	545-5251
マザーズ高田産医院	港北区高田西2-5-27	595-4103
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
レディースクリニック服部	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖ローザクリニックセンター北	都筑区中川中央1-29-24 アビテノール3C	914-6355
やすこレディースクリニック	都筑区茅ヶ崎中央17-26 ビクトリアセンター南201	948-2567
山本内科・タワーズ皮膚科	戸塚区品濃町535-2 中央街区D棟306	825-5871
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
オカノ泌尿器科皮フ科医院	栄区笠間5-20-19 斉藤ビル2F	891-5860
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27 ネクストアイ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29 瀬谷メディカルプラザ2F	300-3711

基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111

医療機関名	所在地	電話番号
横浜市立市民病院	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

病原体定点(16)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科（小児科）	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
室橋内科医院（内科）	中区本牧三之谷23-16	621-0139
とみい眼科（眼科）	中区伊勢佐木町6-143-2 ITビル1F	261-1103
片山こどもクリニック（小児科）	港南区上大岡西2-3-6 ビルディングアルダ2F	844-7577
済生会横浜市南部病院（基幹）	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院（基幹）	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院（基幹）	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科（小児科）	磯子区岡村7-20-14	752-4882
石井内科医院（内科）	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック（小児科）	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科（小児科）	青葉区美しが丘2-20-18 ドムス有本101	901-6870
はやし小児科医院（小児科）	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
昭和大学藤が丘病院（基幹）	青葉区藤が丘1-30	974-8143
内科小児科むかひら医院（内科）	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
瀬谷こどもクリニック（小児科）	瀬谷区中央1-10 カサ・テ・パティオ2F	304-0045
清水小児科（小児科）	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわメディカルビル3F内	360-9191

疑似症定点(単独は56定点、内科定点59小児科定点94を加え209定点)

医療機関名	所在地	電話番号
クリニック寺尾	鶴見区馬場4-40-12	571-0792
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 サンワイズビル3F	584-8233
くらた内科クリニック	鶴見区豊岡町2-3 フーガ3ビル505号室	576-3370
岡本こどもクリニック	鶴見区豊岡町7-7 鶴見駅西口医療ビル1F	570-0377
あしほ総合クリニック	鶴見区鶴見中央3-10	508-3611
井関医院	神奈川区栄町6-1 ヨコハマポートサイトロア式番館1F	451-6864
大口公園クリニック	神奈川区大口仲町15-2	642-7249
神之木クリニック	神奈川区西寺尾3-25-19-4F	435-0113
三ツ沢ハイタウンクリニック	西区宮ヶ谷25-2 三ツ沢ハイタウン1-111	312-0290
いちの内科クリニック	西区平沼1-2-12 甘糟平沼ビル2F	314-1125
中島医院	中区大和町2-34-5 山手駅前クリニックビル1F	621-8713
南永田診療所	南区永田みなみ台2-12-102	714-4880
上六ッ川内科クリニック	南区六ッ川1-873-3	306-8026
横浜ひまわりクリニック	南区西中町4-72	231-5550
岡内科クリニック	港南区上大岡西1-19-18 長瀬ビル3F	841-0133
栗原医院	港南区大久保2-7-19	842-9066
諏訪クリニック	港南区港南台2-11-17	834-1651

医療機関名	所在地	電話番号
豊福医院	港南区上永谷3-18-16	844-2255
新桜クリニック	保土ケ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
くぬぎ台診療所	保土ケ谷区川島町1404 くぬぎ台団地1-5-104	371-5278
小泉内科・胃腸科クリニック	保土ケ谷区星川1-4-5	331-3325
西山皮膚科	旭区中希望が丘100-4 希望が丘センタービル2F	360-7538
いわま内科クリニック	旭区今宿西町475	958-2377
白根診療所	旭区白根5-16-30	953-8881
つくしクリニック	旭区今宿2-63-14	360-0028
藤田小児科	磯子区杉田1-20-22 三葉ビル	771-2671
土屋内科医院	磯子区栗木1-20-5	773-0011
小谷医院	金沢区能見台3-7-7	773-5551
山口診療所	金沢区釜利谷東2-20-9 クリニックビル2F	785-3912
とみおか診療所	金沢区富岡東6-1-3	773-7213
富岡皮膚科クリニック	金沢区富岡西7-3-3 斉木ビル2F	773-2212
高田中央病院	港北区高田西2-6-5	592-5557
大倉山記念病院	港北区樽町1-1-23	531-2546
えびすクリニック	港北区綱島西2-7-2 第7吉田ビル2F	546-8611
日横クリニック	港北区日吉本町1-20-16 日吉教養センタービル2F	563-4115
まつみ医院	港北区日吉本町5-4-1	561-9300
佐々木消化器科内科	港北区綱島東2-12-19 福島クリニックビル3F	545-4588
鴨居小児科内科医院	緑区鴨居1-3-13-107	935-3281
さいとうクリニック	緑区北八朔町1208-1	932-6555
松田クリニック	青葉区美しが丘西2-6-3	909-0130
さつきが丘こどもクリニック	青葉区さつきが丘4-10 アモンクール1F	971-2239
井上小児科医院	青葉区市ケ尾町1167-1 ラバーブル昌和1F	972-0250
川瀬医院	青葉区田奈町45-6	981-3111
あざみ野皮膚科	青葉区あざみ野2-9-11 サンサーラあざみ野ビル3F	905-1241
山本皮フ科クリニック	青葉区新石川3-15-16 TMIビル 1103	910-5033
みたに内科クリニック	都筑区中川1-14-10 オールメンビル1F	910-0933
小川メディカルクリニック	都筑区荏田南3-37-15 横浜青葉クリニックセンター2F	943-6566
荒井皮膚科クリニック	都筑区茅ヶ崎南3-1-60 サ・グレイス2F	945-1112
くまべ循環器内科クリニック	都筑区仲町台1-32-10 アーベイン仲町台1F	948-5338
ゆめはまクリニック	戸塚区舞岡町3406	828-2007
わかば医院	戸塚区深谷町55-71	851-3232
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋クリニックビル1F	865-6666
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46 踊場メディカルセンター2F	861-2511
山崎脳神経外科	栄区長沼町188-8	871-3996
杉本医院	栄区柏陽20-27	891-5417
みたに内科循環器科クリニック	泉区和泉中央南3-1-66 フォレストいずみ中央	806-5067

横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制 定 平成 12 年 11 月 27 日衛感第 340 号（局長決裁）

最近改正 平成 27 年 1 月 21 日健健全第 2034 号（局長決裁）

第 1 趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」（以下「国要綱」という。）を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

第 2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

1 全数把握の対象

一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る。）、(12) 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 M E R S コロナウイルスであるものに限る。）、(13) 鳥インフルエンザ（H5N1）、(14) 鳥インフルエンザ（H7N9）

三類感染症

(15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

四類感染症

(20) E 型肝炎、(21) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22) A 型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) 黄熱、(25) オウム病、(26) オムスク出血熱、(27) 回帰熱、(28) キャサヌル森林病、(29) Q 熱、(30) 狂犬病、(31) コクシジオイデス症、(32) サル痘、(33) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 S F T S ウイルスであるものに限る。）、(34) 腎症候性出血熱、(35) 西部ウマ脳炎、(36) ダニ媒介脳炎、(37) 炭疽、(38) チクングニア熱、(39) つつが虫病、(40) デング熱、(41) 東部ウマ脳炎、(42) 鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(43) ニパウイルス感染症、(44) 日本紅斑熱、(45) 日本脳炎、(46) ハンタウイルス肺症候群、(47) B ウイルス病、(48) 鼻疽、(49) ブルセラ症、(50) ベネズエラウマ脳炎、(51) ヘンドラウイルス感染症、(52) 発しんチフス、(53) ボツリヌス症、(54) マラリア、(55) 野兎病、(56) ライム病、(57) リッサウイルス感染症、(58) リフトバレー

一熱、(59)類鼻疽、(60)レジオネラ症、(61)レプトスピラ症、(62)ロッキー山紅斑熱

五類感染症（全数）

(63)アメーバ赤痢、(64)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(65)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(66)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(67)クリプトスポリジウム症、(68)クロイツフェルト・ヤコブ病、(69)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(70)後天性免疫不全症候群、(71)ジアルジア症、(72)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(73)侵襲性髄膜炎菌感染症、(74)侵襲性肺炎球菌感染症、(75)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(76)先天性風しん症候群、(77)梅毒、(78)播種性クリプトコックス症、(79)破傷風、(80)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(81)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(82)風しん、(83)麻しん、(84)薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(110)新型インフルエンザ、(111)再興型インフルエンザ

指定感染症

該当なし

2 定点把握の対象

五類感染症（定点）

(85)RSウイルス感染症、(86)咽頭結膜熱、(87)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(88)感染性胃腸炎、(89)水痘、(90)手足口病、(91)伝染性紅斑、(92)突発性発しん、(93)百日咳、(94)ヘルパンギーナ、(95)流行性耳下腺炎、(96)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(97)急性出血性結膜炎、(98)流行性角結膜炎、(99)性器クラミジア感染症、(100)性器ヘルペスウイルス感染症、(101)尖圭コンジローマ、(102)淋菌感染症、(103)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(104)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(105)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(106)マイコプラズマ肺炎、(107)無菌性髄膜炎、(108)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(109)薬剤耐性緑膿菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(112)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）若しくは(113)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(13)鳥インフルエンザ（H5N1）

第3 実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

第4 実施体制の整備

1 横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

2 指定届出機関（定点）

健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

3 横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

（1）調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

イ 福祉保健センター

（ア）当該届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。

また、当該患者（四類感染症については、第2の(54)を除く。また、全数把握対象の五類感染症については、第2の(63)、(65)、(66)、(68)、(69)、(70)、(72)、(73)、

(74)、(76)又は(78)から(84)までとする。)を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の衛生研究所への提供について、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票(病原体)」を添付して依頼する。

(イ) 福祉保健センターは、オ(ア)により衛生研究所から検体の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票(病原体)(医療機関あて検査結果通知用)」により速やかに送付する。

ウ 健康福祉局

(ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、内容の点検等を行ったうえで、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。

(イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

エ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。

(イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報(検査情報を含む。)を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

オ 衛生研究所

(ア) 衛生研究所は、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票(病原体)」及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票(病原体)(福祉保健センターあて結果通知用)」により福祉保健センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。

(イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(ウ) 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

2 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

(3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(イ) 2の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の患者発生状況等の情報については、指定された方法により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告する。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、国が定める病原体検査指針により、微生物学的検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式「病原体定点からの検査依頼書」を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

ウ 福祉保健センター

福祉保健センターは、ア(ウ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症情報センターへ送付する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。

エ 健康福祉局

健康福祉局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があり次第、感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、イ(イ)により別記様式「病原体定点からの検査依頼書」及び検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式「病原体定点からの検査依頼書（医療機関あて検査結果通知用）」により病原体定点に通知するとともに、感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた集団発生があつた場合等の緊急の場合にあつては、検体を国立感染症研究所に送付する。

3 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から疑似症定点を選定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- (イ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、

原則として症候群サーベイランスシステムへの入力により実施する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行う。

イ 健康福祉局

健康福祉局は、疑似症の発生状況等を把握し、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、疑似症定点において症候群サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力する。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、健康福祉局へ報告する。

(イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

4 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

(1) 福祉保健センター

鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

(2) 感染症情報センター

ア 感染症情報センターは、(1)により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 医療機関より検体が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

(3) 衛生研究所

ア 衛生研究所は、検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ 鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあつては、法施行規則第9条第2項に従い、検体を国立感染症研究所に送付する。検体を送付する場合においては、(2)イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

第6 その他

本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

なお、感染症発生動向調査事業については、本要綱に基づき実施することとし、結核発生動向調査事業については、従来の「横浜市結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づき実施することとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この実施要綱は、平成15年11月5日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成20年1月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成20年5月12日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成23年2月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

別記様式一覧表

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症
検査票（病原体）（4枚複写式）

（医療機関控）

（福祉保健センター控）

（福祉保健センターあて検査結果通知用）

（医療機関あて検査結果通知用）

病原体定点からの検査依頼書（3枚複写式）

（医療機関控）

（衛生研究所控）

（医療機関あて検査結果通知用）

横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正 平成 23 年 5 月 24 日 健健安第 304 号（局長決裁）

（設置）

第 1 条 横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第 2 条 委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人以上 10 人以下をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 横浜市医師会を代表する者
- (3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第 4 条 委員の任期は、3 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に、委員長及び副委員長 1 人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第 6 条 委員会の会議は、委員長が毎月 1 回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第 7 条 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

(関係者の出席等)

第8条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

(その他)

第10条 本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成14年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年5月24日から施行する。

今月のトピックス

- インフルエンザ警報(警報発令基準値:定点あたり 30.00)が昨シーズンより 4 週早く発令されました。流行が継続しています。
- 伝染性紅斑の報告が多い状態が続いています。

全数把握の対象

【1 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	7 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 件
デング熱	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	14 件
レジオネラ症	9 件	水痘(入院例に限る)	1 件
アメーバ赤痢	4 件	梅毒	3 件
急性脳炎	4 件	風しん	1 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5 件		

- 腸管出血性大腸菌感染症: 1 件(O157VT2)の報告がありました。感染原因や経路は不明です。
- A 型肝炎: 1 件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが感染経路等不明です。
- デング熱: 海外感染例が 3 件(タイおよびインドネシアでの感染)報告されました。全国で、11 月以降国内感染例は報告されていません。
- レジオネラ症: 肺炎型 7 件、ポンティアック型 2 件の報告がありました。これらの報告での関連性は現在までに確認されていません。各症例について引き続き感染経路等調査中です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 4 件の報告があり、すべて国内での感染で、明確な感染経路は不明でした。
- 急性脳炎: 4 件の報告がありました。そのうち 3 件(乳児(予防接種歴無し)、幼児(予防接種歴無し)および学童(予防接種歴不明))は迅速検査でインフルエンザ A 型陽性でした。残るもう 1 件は幼児で病原体検索中です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 5 件の報告があり、4 件は 60 歳代~70 歳代で血清型は A 群(感染経路不明)、もう 1 件は 70 歳代で血清型は G 群(創傷からの感染)でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 3 件、AIDS 3 件、その他 1 件の報告がありました。すべて国内での感染で、うち 6 件は同性間性的接触、残る 1 件は性的接触による感染でした。
- 侵襲性髄膜炎菌感染症: 50 歳代の報告が 1 件ありました。患者は集団での生活はしておらず、周囲に他の患者は確認されませんでした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 14 件の報告がありました。12 件は 60 歳代以上で、そのうち 3 件(1 件は 2 年前に接種、他は接種時期不明)で接種歴が確認できましたが、他は未接種か接種歴不明でした。2 件は乳幼児(9 か月、1 歳)で、それぞれワクチン接種歴が 3、4 回有りました。
- 水痘(入院例に限る): 90 歳代の届出が 1 件ありました。予防接種歴は不明でした。
- 梅毒: 早期顕症梅毒 期 2 件、無症候期 1 件の報告がありました。すべて国内での感染で、2 件は異性間性的接触、もう 1 件は同性間性的接触による感染でした。
- 風しん: 40 歳代男性の報告が 1 件ありました。ワクチン接種歴はありませんでした。

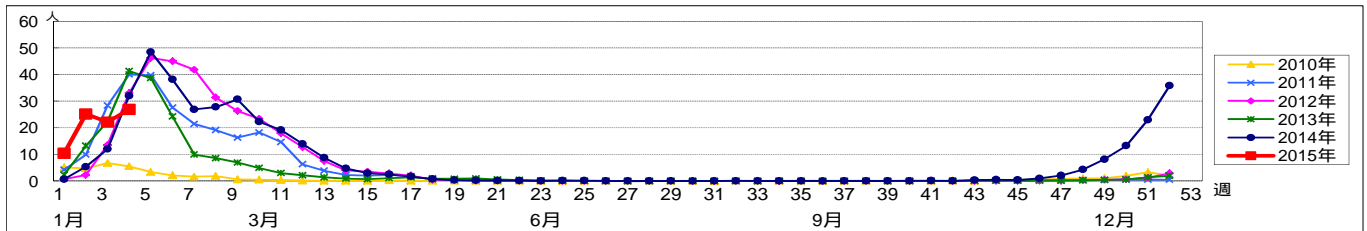
定点把握の対象

- インフルエンザ: 2014 年第 52 週の定点あたりの患者報告数は、横浜市全体で 35.83 と、警報発令基準値 30.00 を上回りました。昨シーズンより 4 週早い警報発令です。年末年始を挟み、その後報告数は下がりましたが、第 4 週 26.89 と再び増加しました。増加の主体は 20 歳未満の患者で、学級閉鎖も再増加しています。第 4 週の迅速キット

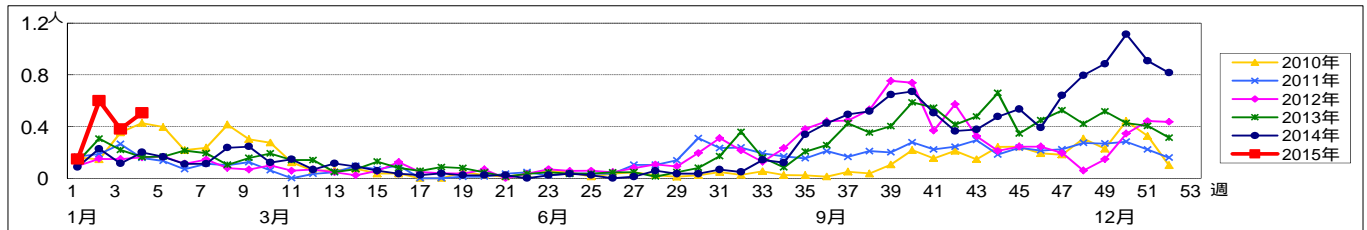
第 52 週	12 月 22 日 ~ 28 日
第 1 週	12 月 29 日 ~ 1 月 4 日
第 2 週	1 月 5 日 ~ 11 日
第 3 週	1 月 12 日 ~ 18 日
第 4 週	1 月 19 日 ~ 25 日

の結果はA型が98.3%で、今シーズンはほとんどB型の増加がみられていません。流行の主体はいままで同様 AH3 亜型(A 香港型)です。市内で検出された株では主な薬剤への耐性は確認されていません。予防にはワクチン接種だけでなく、手洗いや早期受診などの対策が重要です。

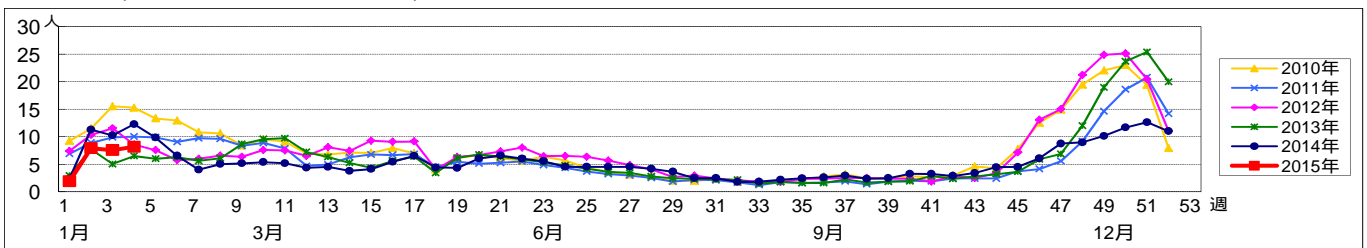
横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)



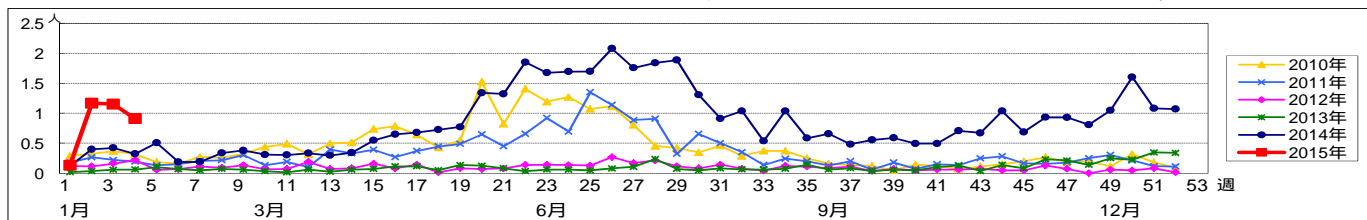
2 RSウイルス感染症: 第4週は市全体で定点あたり0.51と、今シーズンのピークである第50週1.11からは少なくなりましたが、例年よりやや多い傾向です。



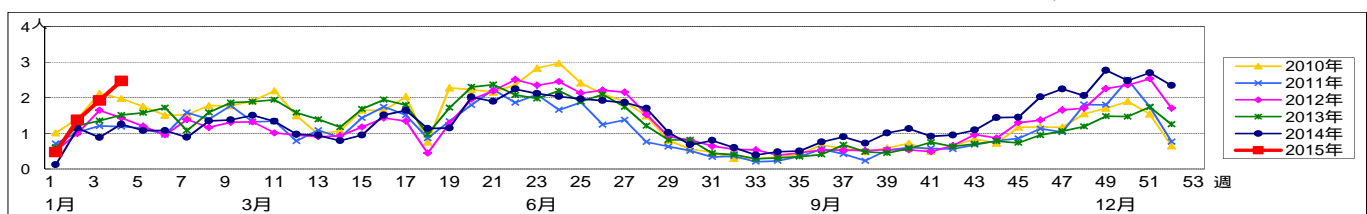
3 感染性胃腸炎: 今シーズンは例年の同時期に比べて報告数は少なく、第4週8.13で、区別にみても警報レベル(警報発令基準値20.00)の区はありません。



4 伝染性紅斑: 昨年8月後半に減少して以降下げ止まり、例年より多い水準で推移しています。



5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第4週は市全体で定点あたり2.47と増加傾向です。



6 性感染症: 12月は、性器クラミジア感染症は男性が27件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性10件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が9件、女性が0件でした。

7 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第52週0.67、第1週0.33、第2週1.00、第3週1.00、第4週0.50となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第52週0.00、第1週0.00、第2週0.00、第3週0.50、第4週0.25でした。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

8 基幹定点月報: 12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- インフルエンザが昨シーズンより 6 週早く、警報解除基準値(定点あたり 10.00)を下回りました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加しています。

全数把握の対象

【2 月期に報告された全数把握疾患】

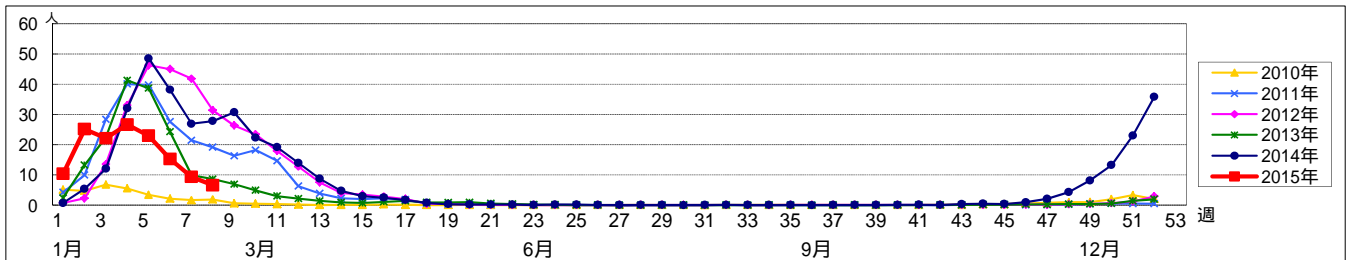
腸管出血性大腸菌感染症	1 件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6 件
腸チフス	1 件	急性脳炎	4 件
パラチフス	1 件	クリプトスポリジウム症	1 件
A 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	4 件
つつが虫病	1 件	ジアルジア症	1 件
デング熱	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	11 件
レジオネラ症	3 件	水痘(入院例に限る)	3 件
アメーバ赤痢	2 件	梅毒	6 件
ウイルス性肝炎	1 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件

- 腸管出血性大腸菌感染症: 1 件(O157VT1VT2)の報告がありました。感染原因や経路は不明です。
- 腸チフス: 1 件の報告がありました。インドネシアでの感染が推定されています。
- パラチフス: 1 件の報告がありました。インドでの感染が推定されています。
- A 型肝炎: 1 件の報告がありました。国内での経口感染が推定されていますが感染経路等不明です。
- つつが虫病: 1 件の報告がありました。ラオス(ルアンナムター)での感染が推定されています。
- デング熱: 1 件の報告がありました。インドネシア(バリ島)での感染が推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型 3 件の報告がありましたが、それぞれ明確な感染経路等不明です。各症例について引き続き感染経路等調査中です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 1 件と腸管アメーバ症及び腸管外アメーバ症 1 件の報告があり、どちらも国内での感染で、明確な感染経路は不明でした。
- ウイルス性肝炎: B 型肝炎の報告が 1 件ありましたが、感染経路等不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 6 件の届出がありました。院内での集団感染等はありませんでした。
- 急性脳炎: 4 件(すべて幼児)の報告がありました。そのうち 2 件はインフルエンザ A 型(いずれも予防接種歴不明)でした。他の病原体については現在検索中です。
- クリプトスポリジウム症: 1 件の報告がありました。フィリピンでの水系感染が推定されています。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 1 件、AIDS 2 件、その他 1 件の報告がありました。3 件は国内での同性間性的接触、残る 1 件は日本又はインドでの感染が推定されており、感染経路は不明でした。
- ジアルジア症: 1 件の報告がありました。カンボジア(シェムリアップ)での経口感染が推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 11 件の報告がありました。50 歳代が 2 名、60 歳代が 3 名、70 歳代以上が 6 名でした。そのうち 70 歳代の 1 件は 3 年ほど前に予防接種を受けていましたが、他は予防接種歴は無いか確認できませんでした。
- 水痘(入院例に限る): 学童 1 件(検査診断例。予防接種歴 2 回有り。)、50 歳代 1 件(検査診断例。予防接種歴不明)、70 歳代 1 件(臨床診断例。予防接種歴不明)の届出がありました。
- 梅毒: 晩期顕症梅毒 2 件(1 件は異性間性的接触、もう 1 件は感染経路感染地域等不明)、早期顕症梅毒 1 件(国内での異性間性的接触)、無症候期 2 件(どちらも国内での感染で、1 件は同性間性的接触、もう 1 件は性的接触)、病型確認中 1 件の報告がありました。
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 1 件の報告がありましたが、院内感染等はありませんでした。

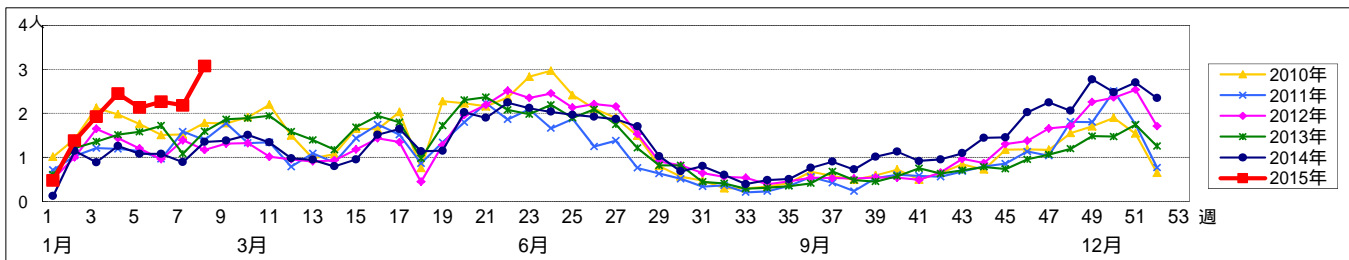
定点把握の対象

平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 5 週	1 月 26 日 ~ 2 月 1 日
第 6 週	2 月 2 日 ~ 8 日
第 7 週	2 月 9 日 ~ 15 日
第 8 週	2 月 16 日 ~ 22 日

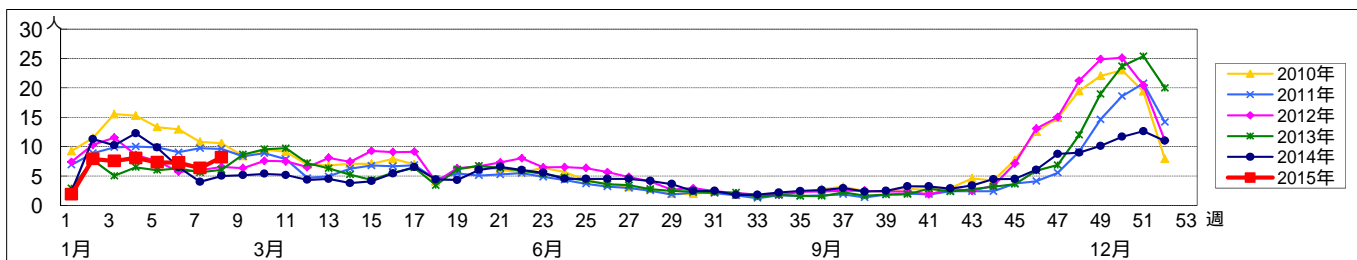
- 1 **インフルエンザ**: 第 7 週に定点あたり 9.30 と、昨シーズンより 6 週早く警報解除基準値 (10.00) を下回りました。第 8 週は 6.57 とさらに減少傾向です。今シーズンは、シーズン後半になっても B 型の著明な増加は見られず、第 8 週で迅速キットの結果は A 型 86.8%、B 型 13.1%、AB 型 0.1%となっています。



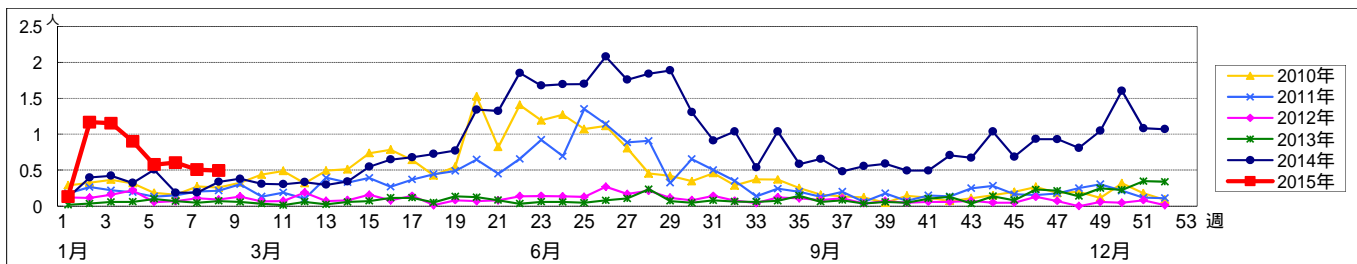
- 2 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 8 週は市全体で定点あたり 3.07 と、この 6 年間で最も多くなっています。



- 3 **感染性胃腸炎**: 第 8 週は市全体で定点あたり 8.18 と落ち着いています。



- 4 **伝染性紅斑**: 第 8 週は市全体で定点あたり 0.49 と、徐々に減少しつつあります。



- 5 **性感染症**: 1 月は、性器クラミジア感染症は男性が 12 件、女性が 11 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 15 件です。尖圭コンジローマは男性 6 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 13 件、女性が 1 件でした。
- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 5 週 0.33、第 6 週 0.00、第 7 週 0.00、第 8 週 0.00 と落ち着いています。感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるもの) は、第 5 週 0.67、第 6 週 0.00、第 7 週 0.33、第 8 週 2.00 と報告されています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**: 1 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

今月のトピックス

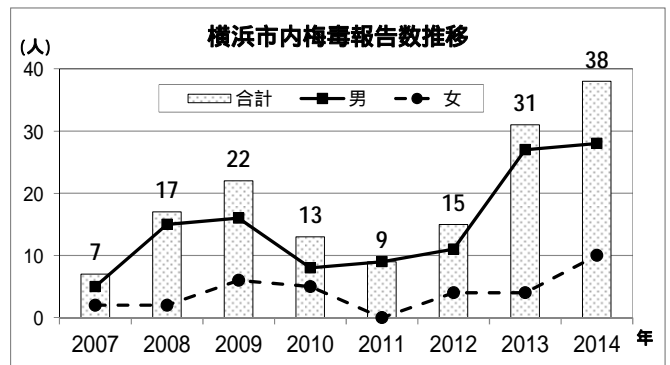
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多い状況が続いています。
- 梅毒の報告が近年増加傾向です。

全数把握の対象

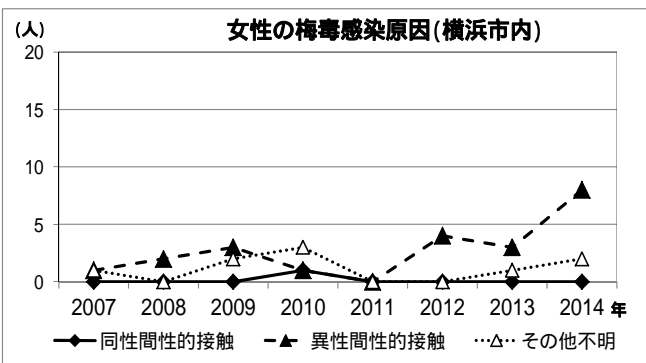
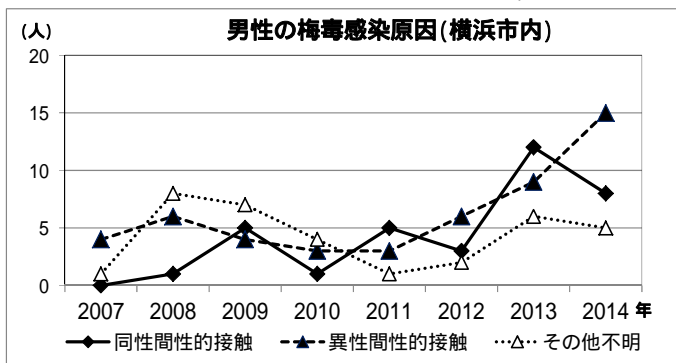
【3 月期に報告された全数把握疾患】

コレラ	1 件	急性脳炎	1 件
パラチフス	2 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
E 型肝炎	2 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	8 件
レジオネラ症	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
アメーバ赤痢	6 件	梅毒	3 件
ウイルス性肝炎	1 件	風しん	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 件	麻しん	1 件

- コレラ: 1 件の報告がありました。フィリピンでの経口感染が推定されています。
- パラチフス: 2 件の報告がありました。どちらもミャンマーでの感染が推定されています。
- E 型肝炎: 2 件の報告がありました。どちらも国内での経口感染が推定されています。1 件では豚生レバー喫食歴が確認されています。E 型肝炎の感染経路は、いわゆる途上国では患者の糞便中に排泄されたウイルスによる経口感染が主で、時に飲料水を介する大規模集団発生が報告されています。一方、日本をはじめ世界各地では、E 型肝炎は動物由来感染症として注目されています。ブタの E 型肝炎ウイルス (HEV) 感染が世界各地で報告されており、日本国内の調査でも 2~3 か月齢のブタの糞便から HEV 遺伝子が高率に検出され、出荷時のブタ (6 か月齢) の抗体保有率は 90% 以上でした。HEV 遺伝子は、出荷されているブタレバーからも検出されており、注意が必要です。
E 型肝炎 (国立感染症研究所)
- レジオネラ症: 肺炎型 3 件の報告がありましたが、それぞれ明確な感染経路等不明です。各症例について引き続き感染経路等調査中です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 5 件と腸管外アメーバ症 1 件の報告がありました。腸管アメーバ症の 5 件のうち 4 件は国内での性的接触 (うち同性間が 1 件、経口・異性間が 1 件、詳細不明が 2 件) による感染でした。残る 1 件は感染経路等不明でした。腸管外アメーバ症の 1 件はタイでの同性間性的接触による感染でした。
- ウイルス性肝炎: B 型肝炎の報告が 1 件ありました。性的接触による感染が推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 1 件の報告がありましたが、院内集団感染等はありませんでした。
- 急性脳炎: 1 件の乳児の報告がありました。アデノウイルスによる感染が推定されています。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2 件の報告があり、1 件は 40 歳代で血清型は A 群 (咽頭炎からの移行が疑われています)、もう 1 件は 70 歳代で血清型は G 群 (感染経路等不明) でした。
- 後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 5 件、AIDS 2 件、その他 1 件の報告がありました。6 件は国内での同性間性的接触、1 件はタイでの異性間性的接触、残る 1 件はインドでの感染が推定されていますが感染経路不明でした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 6 件 (70 歳代以上 3 件、60 歳代 1 件、10 歳代 1 件、幼児 1 件) の報告がありました。幼児は 3 回ワクチンを受けていましたが、他は予防接種歴を確認できませんでした。
- 梅毒: 無症候期が 2 名 (どちらも性的接触による感染で、1 件は同性間、もう 1 件は詳細不明)、早期顕症梅毒 期が 1 件 (同性間性的接触) の報告がありました。すべて国内での感染が推定されています。梅毒は全国的に増加しており、厚生労働省では注意喚起のために「梅毒に関する Q & A」をホー



ムページに掲載しています。横浜市内でも近年男女とも増加傾向にあり、男性では同性間性的接触、異性間性的接触ともに増加傾向にあります。



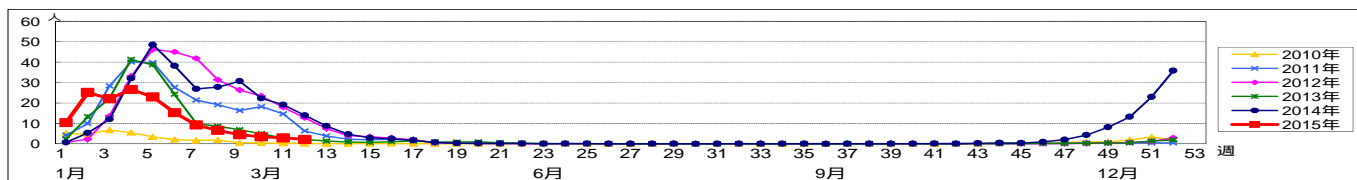
13 風しん:40 歳代男性の報告が 1 件(臨床診断例)ありました。ワクチン接種歴はありませんでした。

14 麻しん:30 歳代男性の報告が 1 件(検査診断例)あり、インドネシア(バリ島)での感染が推定されています。ワクチン接種歴はありませんでした。近年海外で感染した人から国内に感染が拡大する事例が報告されているので注意が必要です。

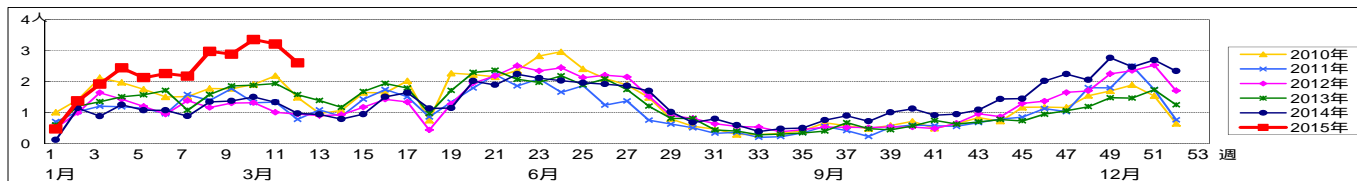
定点把握の対象

1 インフルエンザ:第 12 週は市全体で定点あたり 2.15 と、減少が続いています。

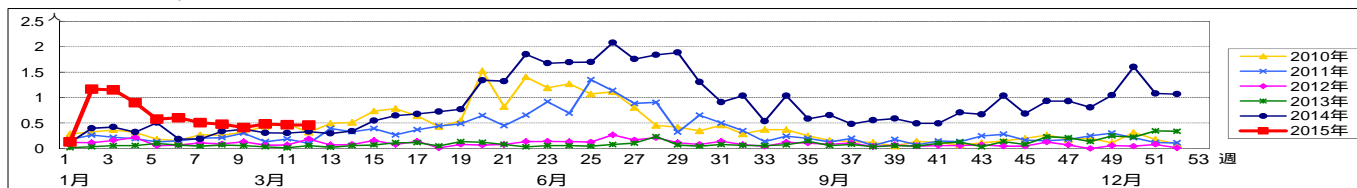
平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 9 週	2 月 23 日 ~ 3 月 1 日
第 10 週	3 月 2 日 ~ 8 日
第 11 週	3 月 9 日 ~ 15 日
第 12 週	3 月 16 日 ~ 22 日



2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第 12 週は市全体で定点あたり 2.61 と、報告の多い状況が続いています。



3 伝染性紅斑:第 12 週は市全体で定点あたり 0.46 ですが、区別では泉区 2.00、瀬谷区 1.50 で報告が多くなっています。



4 性感染症:2 月は、性器クラミジア感染症は男性が 30 件、女性が 11 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 5 件、女性が 16 件です。尖圭コンジローマは男性 4 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 15 件、女性が 2 件でした。

5 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第 9 週 0.50、第 10 週 0.25、第 11 週 0.33、第 12 週 0.67 と継続的に報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第 9 週 0.50、第 10 週 0.75、第 11 週 0.67、第 12 週 0.67 と報告が続いています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

6 基幹定点月報:2 月は薬剤耐性緑膿菌感染症 1 件の報告がありました。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- 細菌性赤痢やデング熱など、海外での感染症に注意しましょう。

全数把握の対象

【4 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
腸管出血性大腸菌感染症	3 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	5 件
デング熱	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	13 件
レジオネラ症	5 件	梅毒	3 件
アメーバ赤痢	5 件	播種性クリプトコックス症	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件
急性脳炎	1 件	風しん	1 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件		

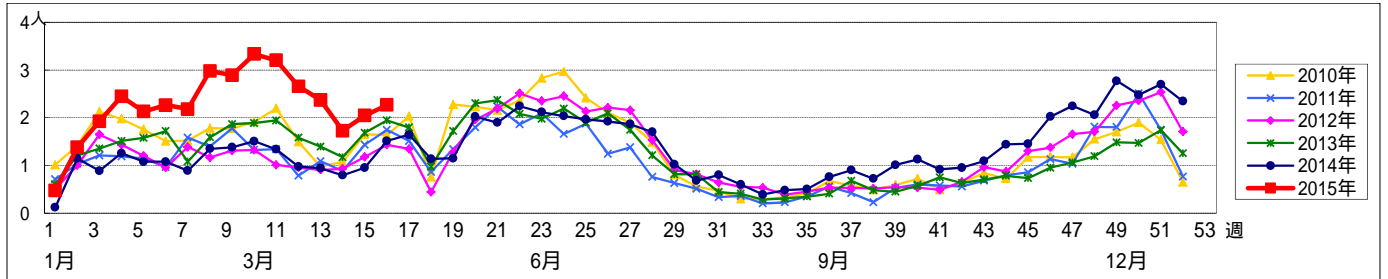
- 1 細菌性赤痢: *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 1 件あり、渡航先(フィリピン(セブ島))での感染が推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: 3 件(O157VT1VT2 1 件、O157VT2 1 件、O157VT 不明 1 件)の報告がありました。感染原因が明らかになったものではありませんでした。本疾患はこれから夏にかけて例年報告数が増加するため注意が必要です。肉は十分に加熱(中心部まで 75 で 1 分間以上加熱)し、食品はよく洗い新鮮な材料を使うなど予防対策が重要です。家庭内での 2 次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにするのが大切です。
- 3 デング熱: 海外感染例が 3 件(シンガポール、ブラジル(サンパウロ)およびインドネシア(バリ島)での感染)報告されました。
- 4 レジオネラ症: 肺炎型 5 件の報告がありましたが、それぞれ明確な感染経路等は不明です。各症例について引き続き感染経路等調査中です。レジオネラ肺炎は市中肺炎の約 5%を占めると言われており、注意が必要です。
- 5 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 5 件の報告がありました。そのうち 3 件では国内での経口感染が推定されており、1 件はタイまたは中国での異性間性的接触による感染、残る 1 件は感染経路感染地域等不明でした。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 1 件の報告がありましたが、院内集団感染等はありませんでした。
- 7 急性脳炎: 1 件の幼児の報告がありました。インフルエンザ A 型による感染が推定されています。
- 8 クロイツフェルト・ヤコブ病: 1 件の古典型 CJD の報告がありました。
- 9 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2 件の報告があり、1 件は 60 歳代で血清型は A 群、もう 1 件は 60 歳代で血清型は G 群でした。
- 10 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 3 件、その他 2 件の報告がありました。そのうち 2 件は国内での同性間性的接触、1 件は日本またはペルーでの異性間性的接触、もう 1 件は日本またはアメリカでの異性間性的接触、残る 1 件は感染経路感染地域等不明でした。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 13 件(70 歳代以上 6 件、60 歳代 2 件、50 歳代 2 件、40 歳代 2 件、10 歳代 1 件)の報告がありました。そのうち予防接種を 1 回接種しているのが確認できたのは 70 歳代以上の 2 件のみで、他は予防接種歴が確認できませんでした。
- 12 梅毒: 早期顕症梅毒 期が 1 件(性的接触による感染)、早期顕症梅毒 期が 1 件(性的接触による感染)、無症候期が 1 件(異性間性的接触による感染)の報告がありました。すべて国内での感染が推定されています。梅毒は全国的に増加しており、厚生労働省では注意喚起のために「梅毒に関する Q&A」をホームページに掲載しています。横浜市内でも近年男女とも増加傾向にあり、男性では同性間性的接触、異性間性的接触ともに増加傾向にあります。
- 13 播種性クリプトコックス症: 40 歳代男性の報告が 1 件ありました。HIV の感染が確認されています。平成 26 年 9 月 19 日から本疾患が届出対象疾患になっています。

- 14 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**:1 件の報告がありました。院内感染等はありませんでした。
- 15 **風しん**:20 歳代女性の報告が 1 件(検査診断例)ありました。フィリピンでの感染が推定されています。ワクチン接種歴はありませんでした。

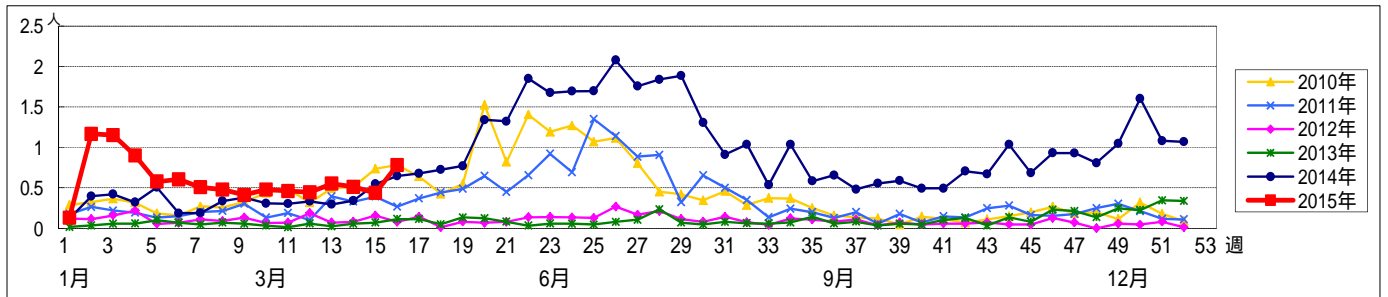
平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 13 週	3 月 23 日 ~ 29 日
第 14 週	3 月 30 日 ~ 4 月 5 日
第 15 週	4 月 6 日 ~ 12 日
第 16 週	4 月 13 日 ~ 19 日

定点把握の対象

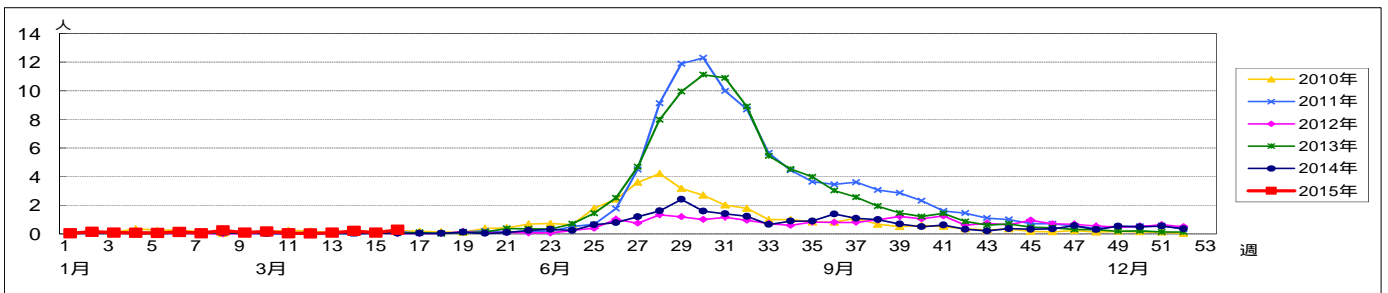
1 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第 16 週は市全体で定点あたり 2.27 と、例年の同時期と比べて報告の多い状況が続いています。



2 **伝染性紅斑**:第 16 週は市全体で定点あたり 0.78 と、やや増加しました。例年より報告が多い状態で推移しており、今後流行期を迎え注意が必要です。



3 **手足口病**:第 16 週は市全体で定点あたり 0.29 と落ち着いていますが、島根県(5.22)、佐賀県(2.74)などで報告が増加しており、今後の注意が必要です。



- 4 **性感染症**:3 月は、性器クラミジア感染症は男性が 18 件、女性が 18 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 5 件です。尖圭コンジローマは男性 3 件、女性が 1 件でした。淋菌感染症は男性が 14 件、女性が 1 件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 13 週 0.25、第 14 週 0.50、第 15 週 0.00、第 16 週 0.00 となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第 13 週 1.00、第 14 週 1.00、第 15 週 0.00、第 16 週 0.00 となっています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:3 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

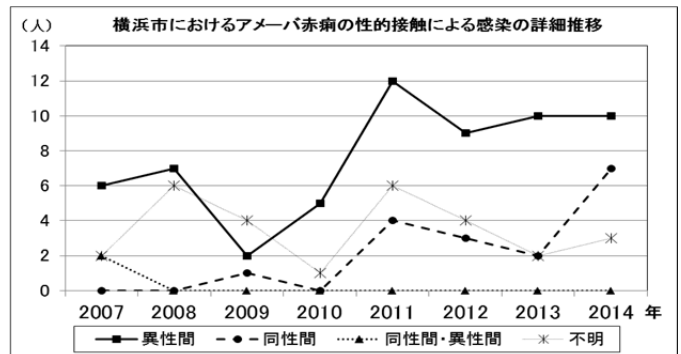
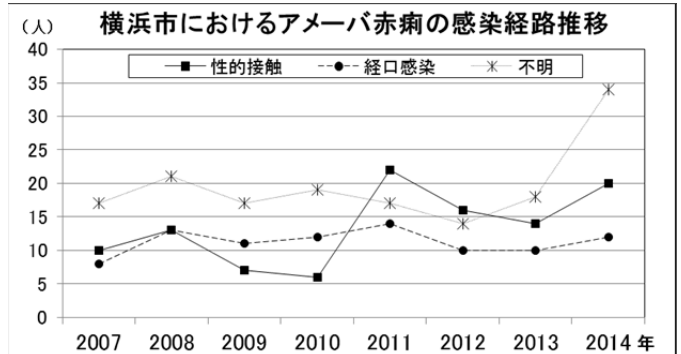
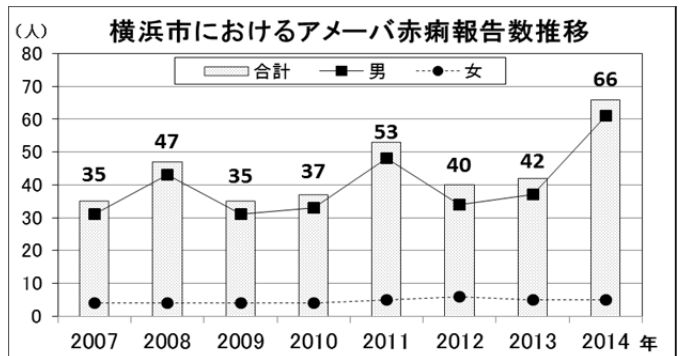
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多くなっています。
- 夏季に流行する感染症(腸管出血性大腸菌感染症、咽頭結膜熱、手足口病等)に注意しましょう。

全数把握の対象

【5 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	3 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	4 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
マラリア	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	15 件
レジオネラ症	3 件	水痘(入院例に限る)	2 件
アメーバ赤痢	4 件	梅毒	9 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3 件		

- 腸管出血性大腸菌感染症**: 3 件(O157VT1VT2 1 件、O157VT2 1 件、O18VT1 1 件)の報告がありました。感染原因が特定されたものではありませんでした。本疾患はこれから夏にかけて例年報告数が増加するため注意が必要です。
- A 型肝炎**: 1 件の報告がありました。国内での経口感染が推定されていますが感染経路等不明です。
- マラリア**: 熱帯熱マラリアの報告が 1 件あり、渡航先(ガーナ)での感染が推定されています。
- レジオネラ症**: 肺炎型 3 件の報告がありました。それぞれ明確な感染経路等は不明です。
- アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 3 件、腸管外アメーバ症 1 件の報告がありました。そのうち 1 件では国内での同性間性的接触による感染が推定されており、1 件は香港での経口性的接触による感染、残る 2 件は感染経路感染地域等不明でした。横浜市ではアメーバ赤痢の報告数が漸増傾向です。最近の感染経路では性的接触が経口感染を上回っており、性的接触では異性間が同性間を上回っています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 3 件の報告がありました。院内集団感染等は確認できませんでした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**: AIDS 3 件、その他 1 件の報告がありました。そのうち 2 件は国内での同性間性的接触、1 件は国内での異性間性的接触による感染、残る 1 件は異性間性的接触による感染で、感染地域は不明でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 70 歳代の報告が 1 件ありました。予防接種歴はありませんでした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**: 15 件(70 歳代以上 6 件、60 歳代 2 件、50 歳代 1 件、40 歳代 3 件、乳幼児 3 件)の報告がありました。そのうち乳幼児では全例予防接種歴がありましたが、成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。
- 水痘(入院例に限る)**: 80 歳代(予防接種歴不明)の届出が 1 件、学童(予防接種歴 1 回あり)の届出が 1 件



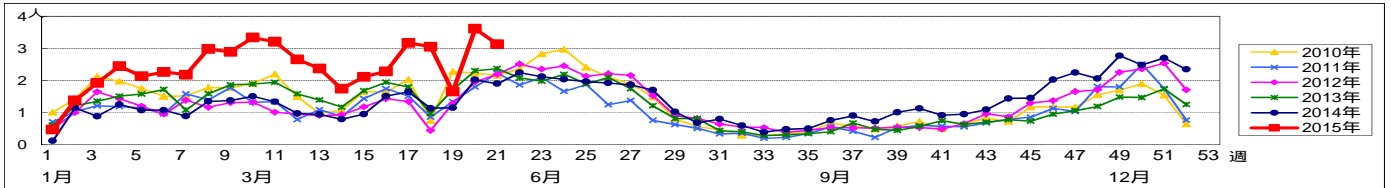
ありました。どちらも臨床診断例です。

- 11 **梅毒**:早期顕症梅毒 期が 4 件、早期顕症梅毒 期が 4 件、無症候期が 1 件の報告がありました。すべて国内での性的接触による感染が推定されており、異性間が 5 件、同性間が 3 件、不明 1 件でした。梅毒は全国的に増加しており、厚生労働省では注意喚起のために「梅毒に関する Q&A」をホームページに掲載しています。

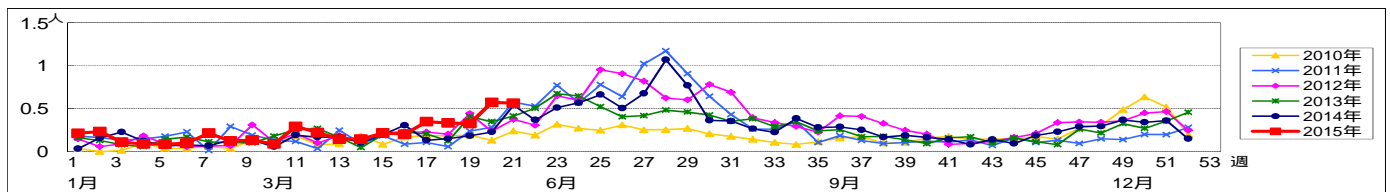
定点把握の対象

平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 17 週	4 月 20 日 ~ 26 日
第 18 週	4 月 27 日 ~ 5 月 3 日
第 19 週	5 月 4 日 ~ 10 日
第 20 週	5 月 11 日 ~ 17 日
第 21 週	5 月 18 日 ~ 24 日

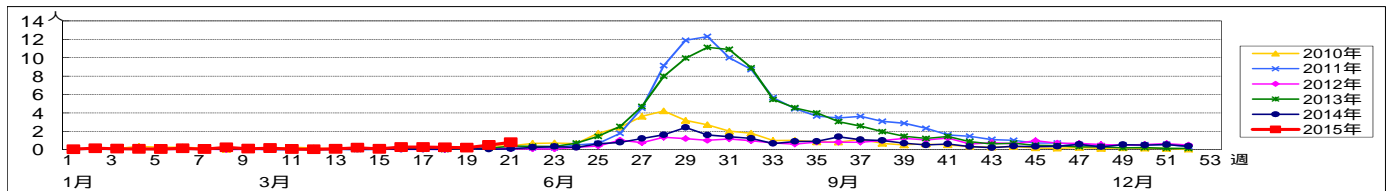
- 1 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第 21 週は市全体で定点あたり 3.13 と、例年の同時期と比べて報告が多くなっています。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は学童期の小児に多い疾患です。合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生ずることもあり、注意が必要です。



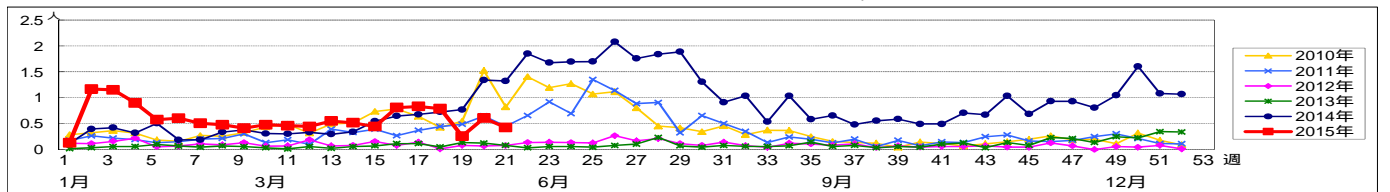
- 2 **咽頭結膜熱**:第 21 週は市全体で定点あたり 0.56 と増加傾向です。本市では例年 6 月 ~ 7 月にかけて報告のピークを迎えるので今後の注意が必要です。感染経路は、プールを介した場合には、汚染した水から結膜への直接侵入と考えられています。また、プールでのアウトブレイクの調査結果からは、タオルを共用したことが感染のリスクを高めたとの報告もあります。それ以外では通常飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染です。



- 3 **手足口病**:まだ報告数は多くありませんが、夏季に流行する疾患であり、第 19 週 0.21、第 20 週 0.49、第 21 週 0.79 と、少しずつ報告数が増えています。



- 4 **伝染性紅斑**:第 21 週は市全体で定点あたり 0.43 と低下傾向です。



- 5 **性感染症**:4 月は、性器クラミジア感染症は男性が 22 件、女性が 13 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 7 件です。尖圭コンジローマは男性 4 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 7 件、女性が 2 件でした。

- 6 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 17 週 0.25、第 18 週 1.00、第 19 週 1.25、第 20 週 0.00、第 21 週 1.00 となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第 17 週 1.00、第 18 週 0.67、第 19 週 0.50、第 20 週 0.33、第 21 週 0.00 となっています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

- 7 **基幹定点月報**:4 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 15 件、薬剤耐性緑膿菌感染症 1 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多い状況が続いています。
- 夏季に流行する感染症(腸管出血性大腸菌感染症、咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等)が増加傾向です。

全数把握の対象

【6 月期に報告された全数把握疾患】

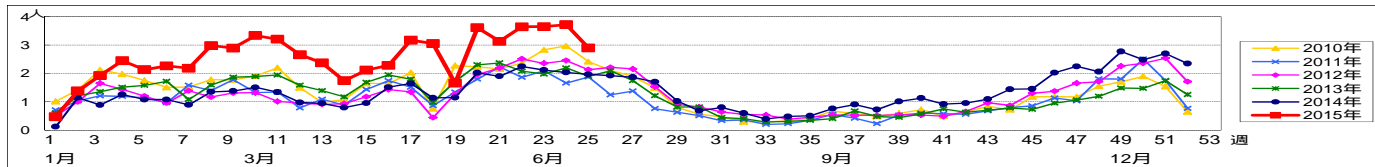
腸管出血性大腸菌感染症	6 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
パラチフス	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	5 件
レジオネラ症	7 件	水痘(入院例に限る)	1 件
アメーバ赤痢	4 件	梅毒	4 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件	風しん	1 件
後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	3 件		

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 6 件(O157VT1VT2 3 件、O26VT1 2 件、O121VT2 1 件)の報告がありました。感染原因が特定されたものではありませんでしたが、家族内感染例がありました。家庭内での 2 次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。本疾患はこれから夏にかけて例年報告数が増加するため注意が必要です。
- 2 パラチフス: 3 件の報告がありました。すべて海外(ミャンマー(ヤンゴン)およびインド(ムンバイ))での経口感染が推定されています。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型 6 件、ポンティアック型 1 件の報告がありました。明確な感染経路等は不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 3 件、腸管外アメーバ症 1 件の報告がありました。すべて国内での感染で、そのうち 2 件は異性間性的接触、もう 1 件は同性間性的接触、残るもう 1 件は経口感染が推定されています。
- 5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 90 歳代女性の報告が 1 件ありました。創傷感染が推定されています。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 2 件、AIDS 1 件の報告がありました。すべて国内での同性間性的接触による感染でした。
- 7 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 70 歳代の報告が 1 件ありました。予防接種歴はありませんでした。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症: 5 件(70 歳代 1 件、60 歳代 1 件、40 歳代 1 件、30 歳代 1 件、幼児 1 件)の報告がありました。そのうち幼児では予防接種歴(13 価 4 回)がありましたが、成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。
- 9 水痘(入院例に限る): 30 歳代(予防接種歴不明)の臨床診断例の届出が 1 件ありました。
- 10 梅毒: 早期顕症梅毒 期が 3 件、早期顕症梅毒 期が 1 件の報告がありました。すべて国内での性的接触による感染が推定されており、異性間が 2 件、同性間が 1 件、不明 1 件でした。梅毒は全国的に増加しており、厚生労働省では注意喚起のために「梅毒に関する Q&A」をホームページに掲載しています。
- 11 風しん: 30 歳代男性 1 件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。横浜市では、妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは横浜市保健所ホームページをご参照ください。

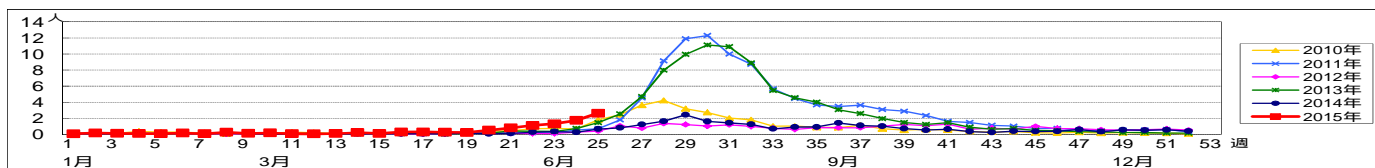
定点把握の対象

平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 22 週	5 月 25 日 ~ 31 日
第 23 週	6 月 1 日 ~ 7 日
第 24 週	6 月 8 日 ~ 14 日
第 25 週	6 月 15 日 ~ 21 日

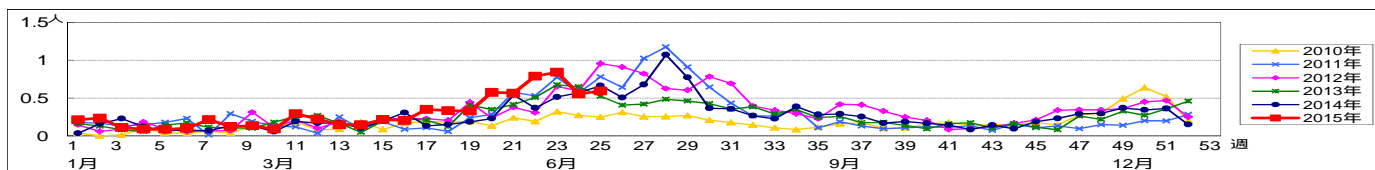
- 1 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 25 週は市全体で定点あたり 2.90 と、前週に比べてやや減少しましたが、今シーズンは例年に比べて報告が多い状態が継続しています。直近 5 週間の集計では、4~7 歳が報告の 57.0% を占めています。区別では都筑区 8.67 など、報告が特に多い区も見られます。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生ずることもあり、注意が必要です。



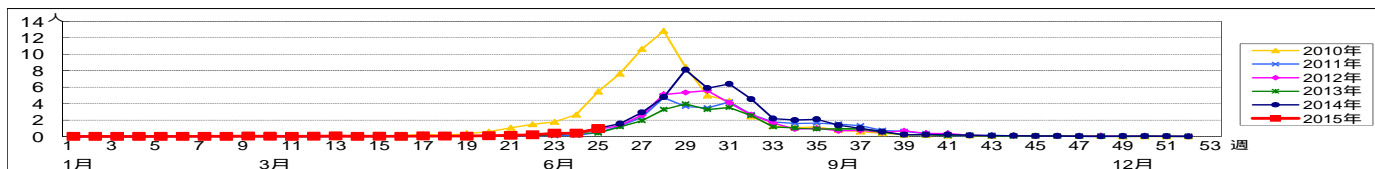
- 2 **手足口病**: 第 25 週は市全体で定点あたり 2.62 と、徐々に報告が増加しています。区別では旭区 6.60、鶴見区 6.00 などと報告が多い区も見られます。全国的には第 24 週で徳島県 13.83、香川県 8.50、鳥取県 6.79 と西日本で報告が多くなっています。例年これからの時期に流行する疾患であり、注意が必要です。



- 3 **咽頭結膜熱**: 第 25 週は市全体で定点あたり 0.59 と、第 23 週 0.84 からは減少しましたが、例年並みの流行期を迎えています。例年本市では 7 月頃まで流行が続くことが多いので、もうしばらく注意が必要です。プールを介した場合の感染経路は、汚染した水から結膜への直接侵入と考えられています。また、プールでのアウトブレイクの調査結果からは、タオルを共用したことが感染のリスクを高めたとの報告もあります。それ以外では通常飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染です。



- 4 **ヘルパンギーナ**: 第 25 週は市全体で定点あたり 0.95 と、やや増加傾向です。現在のところ、例年と同様の増加傾向を示しています。これからのさらなる増加が予想されるため、注意が必要です



- 5 **性感染症**: 5 月は、性器クラミジア感染症は男性が 19 件、女性が 14 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 10 件、女性が 15 件です。尖圭コンジローマは男性 4 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 16 件、女性が 0 件でした。
- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 22 週 0.75、第 23 週 0.25、第 24 週 1.25、第 25 週 0.00 となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第 22 週 0.25、第 23 週 0.25、第 24 週 0.25、第 25 週 0.00 となっています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**: 5 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 12 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 1 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

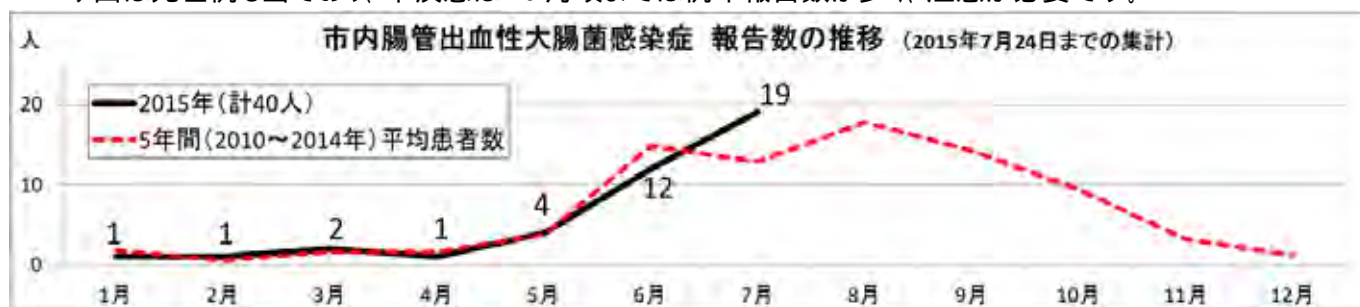
- 手足口病が過去 10 年間で最大の流行です。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多くなっています。
- ヘルパンギーナが流行しています。

全数把握の対象

【7 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	26 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
パラチフス	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
A 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	7 件
デング熱	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	8 件
レジオネラ症	5 件	水痘(入院例に限る)	2 件
アメーバ赤痢	6 件	梅毒	4 件
ウイルス性肝炎	1 件	風しん	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8 件		

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 26 件の報告がありました。6 月、7 月と急激に報告が増加しており、7 月は過去 5 年間の平均報告数を 7 月 24 日の時点で既に上回っています。今回報告された事例の中に、溶血性尿毒症症候群(HUS)を引き起こした小児が、精肉店で購入した牛レバー(加熱用)を家庭において生で喫食していた事例がありました。レバーを生で喫食することは避け、肉は十分に加熱(中心部まで 75℃ で 1 分間以上加熱)しましょう。また、他には家族内での 2 次感染事例もありました。2 次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。今回は死亡例も出ており、本疾患は 10 月頃までは例年報告数が多く、注意が必要です。



- 2 パラチフス: 1 件の報告があり、渡航先(ミャンマー(ヤンゴン))での感染が推定されています。
- 3 A 型肝炎: 1 件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。
- 4 デング熱: 2 件の報告があり、どちらも渡航先(ベトナムおよびタイ)での感染が推定されています。
- 5 レジオネラ症: 肺炎型 5 件の報告がありました。明確な感染経路等は不明です。
- 6 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 6 件の報告がありました。すべて国内での感染で、そのうち 3 件は異性間性的接触(異性間 2 件、詳細不明 1 件)、もう 1 件は経口感染、残る 2 件は感染経路等不明でした。
- 7 ウイルス性肝炎: 1 件の C 型肝炎の報告があり、感染経路等不明でした。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 8 件の報告がありました。院内集団感染等はありませんでした。
- 9 クロイツフェルト・ヤコブ病: 1 件の古典型 CJD の報告があり、診断の確実度はほぼ確実です。
- 10 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 1 件の報告があり、創傷感染が推定されています。
- 11 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 3 件、AIDS 2 件、その他 2 件の報告がありました。すべて国内での感染で、4 件が同性間性的接触、2 件が同性間または異性間、1 件が異性間による感染でした。
- 12 侵襲性肺炎球菌感染症: 8 件(成人例 5 件(血清型判明は 1 件のみで 3 型)、幼児例 3 件(血清型 24F 型 1 件、12F 型 2 件))の報告がありました。そのうち幼児では全例予防接種歴(7 価 4 回 2 件、7 価 3 回 1 例)

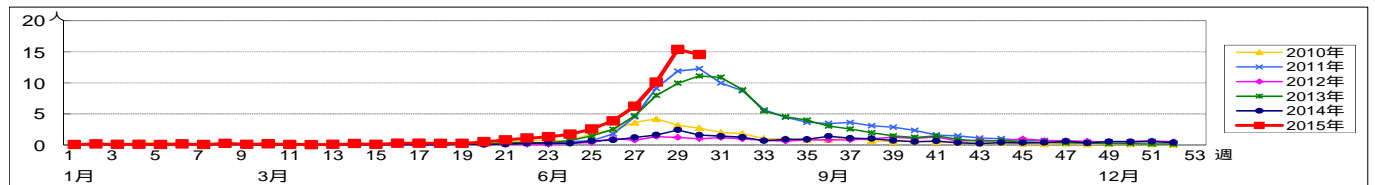
回 1 件)がありました。成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。

- 13 **水痘(入院例に限る)**: 2 件の検査診断例の報告があり、1 件は 3 歳で予防接種歴 1 回有り、もう 1 件は 30 歳代で予防接種歴不明でした。
- 14 **梅毒**: 早期顕症梅毒 期 4 件の報告がありました。すべて国内での異性間性的接触(異性間性交 3 件、経口 1 件)による感染が推定されています。
- 15 **風しん**: 幼児の検査診断例が 1 件(ワクチン接種歴 1 回有り)の報告がありました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。横浜市では、妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは横浜市保健所ホームページをご参照ください。

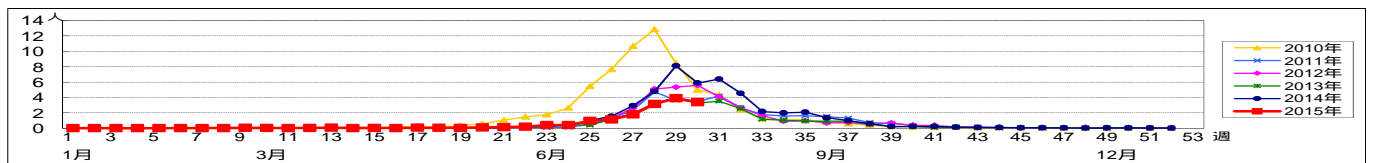
定点把握の対象

平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 26 週	6 月 22 日 ~ 28 日
第 27 週	6 月 29 日 ~ 7 月 5 日
第 28 週	7 月 6 日 ~ 12 日
第 29 週	7 月 13 日 ~ 19 日
第 30 週	7 月 20 日 ~ 26 日

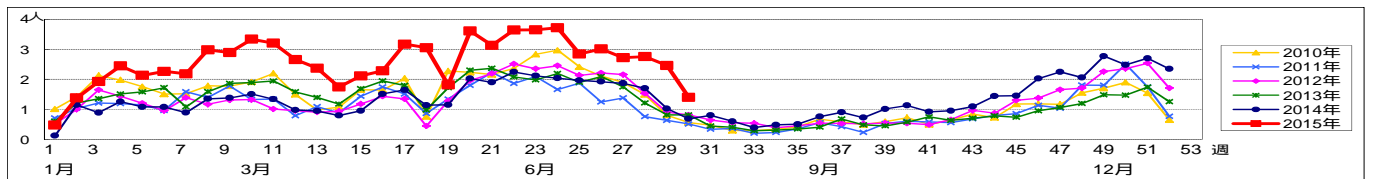
- 1 **手足口病**: 今シーズンは過去 10 年間で最大の流行となっています。市内の患者からは、コクサッキーウイルス A16(CA16)が検出されていましたが、7 月以降コクサッキーウイルス A6(CA6)が検出されています。CA6 による手足口病では、かなり大きな水疱が四肢末端に限局せず広範囲に認められ、罹患 1~2 か月後に爪甲が脱落する症例も報告されています。今後しばらく流行の継続が予想されるので注意が必要です。



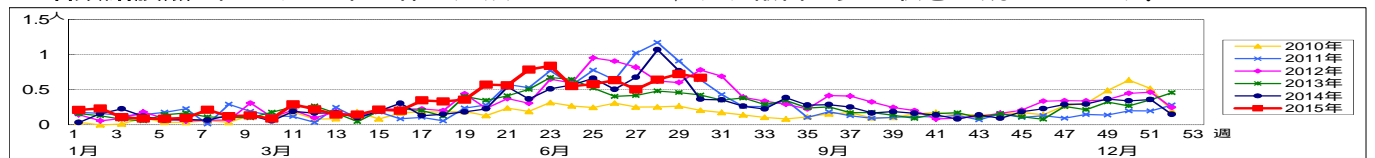
- 2 **ヘルパンギーナ**: 第 30 週は市全体で定点あたり 3.38 となっており、前週よりやや低下したものの、今シーズンの流行のピークを迎えていると考えられます。しばらく流行が続くことが考えられ、注意が必要です。



- 3 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 30 週は市全体で定点あたり 1.40 と、前週に比べて減少しましたが、今シーズンは例年に比べて報告が多い状態が継続しています。



- 4 **咽頭結膜熱**: 第 30 週は市全体で定点あたり 0.67 と、やや報告の多い状態が続いています。



- 5 **性感染症**: 6 月は、性器クラミジア感染症は男性が 22 件、女性が 20 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 3 件、女性が 4 件です。尖圭コンジローマは男性 5 件、女性が 0 件でした。淋菌感染症は男性が 19 件、女性が 4 件でした。
- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 26 週 1.00、第 27 週 0.33、第 28 週 0.00、第 29 週 1.00、第 30 週 0.00 となっています。細菌性髄膜炎は第 26 週に 1 件報告(原因菌不明)がありました。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**: 6 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 8 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 6 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- 手足口病が流行のピークを過ぎました。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。

全数把握の対象

【8 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
腸管出血性大腸菌感染症	14 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	4 件
デング熱	3 件	ジアルジア症	1 件
レジオネラ症	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	4 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
ウイルス性肝炎	1 件	梅毒	4 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	9 件	破傷風	1 件
急性脳炎	1 件	風しん	1 件

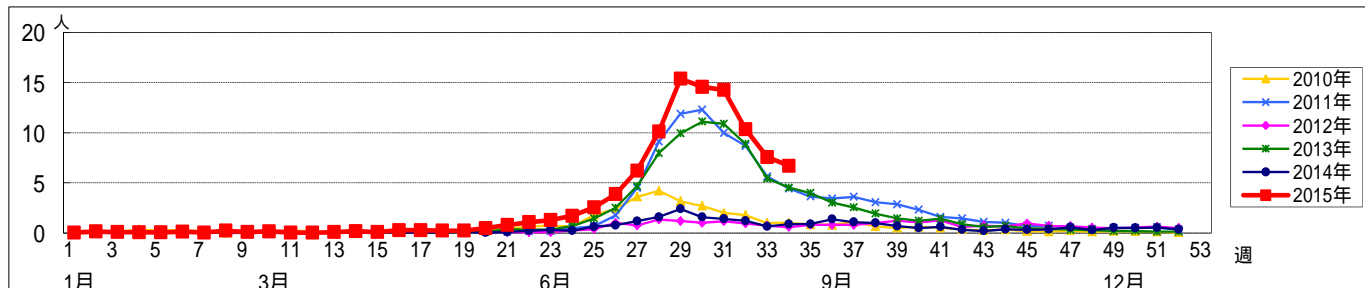
- 細菌性赤痢:** *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 1 件あり、渡航先(ベトナム(ハノイまたはホーチミン))での感染が推定されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症:** 14 件の報告がありました。うち、3 名は同一焼肉店で喫食していたことが判明しました。調査したところ、従業員 1 名から O157 が検出されました。焼肉をするときには、生肉を扱う時はトングを、焼いた肉を扱うときは箸を使うなど、きちんと使い分け、十分に加熱(中心部まで 75℃で 1 分間以上加熱)することが大切です。また、家族内発生事例が 2 件ありました。2 次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
- デング熱:** 3 件の報告があり、すべて海外感染例(インド(デリーまたはバンガロール)、バングラデシュ(ダッカ)、スリランカ)です。
- レジオネラ症:** 肺炎型 1 件の報告がありましたが、明確な感染経路等は不明です。
- アメーバ赤痢:** 腸管アメーバ症 4 件の報告がありました。2 件は国内での性的接触による感染で、もう 2 件は経口感染(1 件は国内、もう 1 件は感染地域不明)でした。
- ウイルス性肝炎:** 1 件のサイトメガロウイルスによる肝炎の報告がありました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:** 9 件の報告がありましたが、院内集団感染等はありませんでした。
- 急性脳炎:** 1 件の幼児の報告がありました。病原体検索中です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:** 2 件の報告(幼児及び 60 歳代)がありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):** AIDS 2 件、無症状病原体保有者 1 件、その他 1 件の報告がありました。うち 2 件は国内での感染(同性間および異性間性的接触)で、もう 1 件がナイジェリアでの医療機関での感染、残るもう 1 件が感染地域不明(同性間性的接触)でした。
- ジアルジア症:** 1 件の報告があり、国内での性的接触(経口・異性間)による感染が推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:** 1 件の 80 歳代の報告がありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:** 6 件(成人例 5 件、幼児例 1 件)の報告がありました。幼児では予防接種歴が 2 回ありましたが、成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。
- 梅毒:** 早期顕症梅毒Ⅱ期 3 件(20 歳代女性 2 件、40 歳代女性 1 件)、無症候期 1 件(20 歳代男性)の報告がありました。感染経路では、国内での異性間性的接触 2 件、感染地域不明で異性間性的接触 1 件、感染地域不明で性的接触(詳細不明)1 件でした。
- 破傷風:** 70 歳代の報告が 1 件ありました。感染経路不明でした。
- 風しん:** 40 歳代男性の検査診断例が 1 件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。横浜市では、①妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、②妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、③妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風し

んの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは横浜市保健所ホームページをご参照ください。

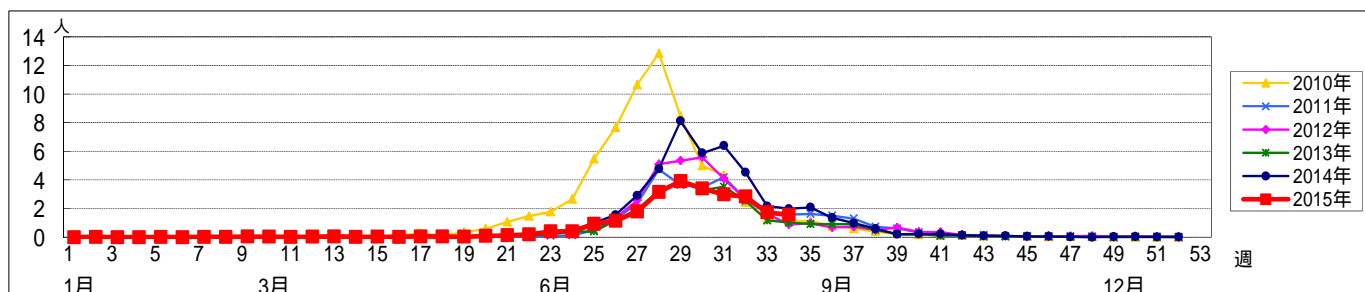
定点把握の対象

平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 31 週	7 月 27 日～8 月 2 日
第 32 週	8 月 3 日～9 日
第 33 週	8 月 10 日～16 日
第 34 週	8 月 17 日～23 日

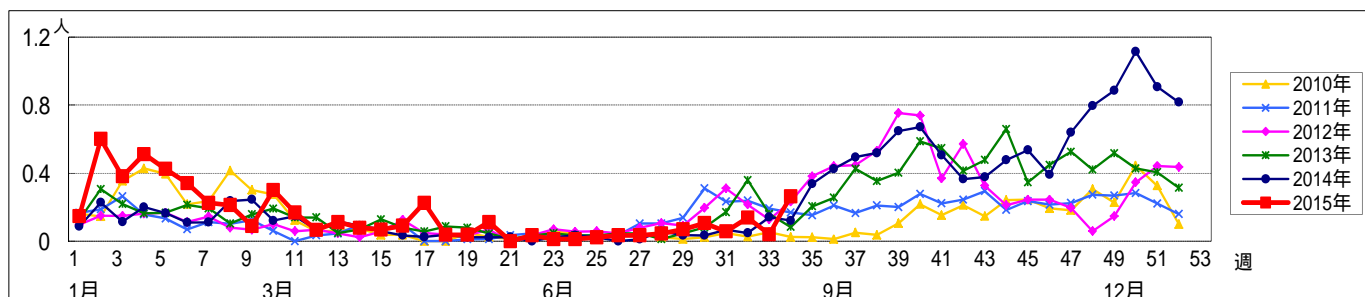
- 1 **手足口病**:今シーズンは過去 10 年間で最大の流行となりましたが、第 34 週は市全体で定点あたり 6.71 と低下傾向です。市内の患者からは、コクサッキーウイルス A16 (CA16) とコクサッキーウイルス A6 (CA6) が検出されています。CA6 による手足口病では、かなり大きな水疱が四肢末端に限局せず広範囲に認められ、罹患 1～2 か月後に爪甲が脱落する症例も報告されています。



- 2 **ヘルパンギーナ**:第 34 週は市全体で定点あたり 1.57 と低下傾向です。



- 3 **RS ウイルス感染症**:第 34 週は市全体で定点あたり 0.26 と、まだ報告は少ないものの、例年これから徐々に増加する疾患です。



- 4 **性感染症**:7 月は、性器クラミジア感染症は男性が 32 件、女性が 31 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 8 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 4 件でした。淋菌感染症は男性が 27 件、女性が 1 件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 31 週 1.00、第 32 週 1.00、第 33 週 1.25、第 34 週 1.25 と、継続して報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:7 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 5 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 5 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- 手足口病の流行はピークを過ぎましたが、警報レベルが続いています。
- RS ウイルス感染症の報告が急激に増加しています。

全数把握の対象

【9 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	11 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	3 件
E 型肝炎	1 件	ジアルジア症	1 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3 件
デング熱	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	1 件
レジオネラ症	5 件	水痘 (入院例に限る)	1 件
アメーバ赤痢	5 件	梅毒	5 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3 件	風しん	1 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件		

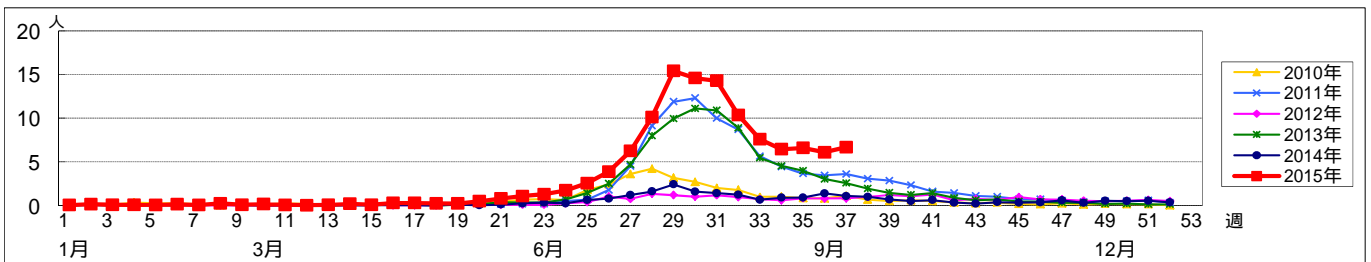
- 腸管出血性大腸菌感染症**: 11 件の報告がありました。感染源の食品が明確になった食中毒などの事例はありませんでしたが、肉を十分加熱 (中心部まで 75℃ で 1 分間以上加熱) して食べるなど、予防対策が重要です。また、本疾患は家族内での 2 次感染も多く見られるため、予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
- E 型肝炎**: 50 歳代の報告が 1 件ありました。シンガポールでの感染が、国内での鳥レバー喫食による感染が推定されています。東南アジアでは水系感染による感染が多く、国内での感染は、多くが生肉や内臓の喫食が関連しています。ブタ、シカ、イノシシなどの肉・内臓を食する場合には十分加熱することが大切です。国立感染症研究所によると、E 型肝炎となった場合、致死率は一般の人々でも 1~2% で、さらに妊婦では劇症肝炎の割合が高く、致死率が 20% にも達することがあり、注意が必要です。
- A 型肝炎**: 50 歳代の報告が 1 件あり、国内での経口感染が推定されています。本疾患は上下水道の整備不十分な発展途上国への渡航時の感染が以前は多く見られましたが、近年国内感染例が増加しています。感染症発生動向調査の集計によると、国内での感染の特徴は、牡蠣やなんらかの飲食物 (おそらく海産物) が主要な感染源で、罹患年齢が高年齢化しており、子供の感染では症状が軽い、高齢者では重症化しやすい、などの特徴が見られます。
- デング熱**: 3 件の報告のすべてに海外渡航歴 (モルディブ、フィリピン (マニラ)、東ティモール) がありました。
- レジオネラ症**: 肺炎型 5 件の報告がありました。明確な感染経路等は不明です。
- アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 5 件 (国内感染例 4 件、感染地域等不明 1 件) の報告がありました。国内感染例のうち、1 件は異性間性的接触による感染、もう 1 件は経口感染、残る 2 件は感染経路不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 3 件の報告がありました。院内集団感染等はありませんでした。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 1 件の新生児の経産道感染による報告 (血清型: B 群) がありました。全身状態は安定しており、軽快しました。
- 後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)**: 無症状病原体保有者 2 件、AIDS 1 件の報告がありました。うち 2 件は国内での感染 (同性間および同性間・異性間性的接触) で、もう 1 件は感染地域不明ですが同性間・異性間性的接触による感染が推定されています。
- ジアルジア症**: 1 件の幼児の報告があり、国内での水系感染が推定されていますが、明確な感染源は不明でした。国立感染症研究所によると、ジアルジア症は典型的な糞口感染で、嚢子で汚染された食品や飲料水を介して伝播します。嚢子は感染力が強い (ヒトでの実験では、10~25 個の嚢子の摂取により感染が成立) ため、排泄者に対しては排便後の手洗いの指導が重要です。嚢子は水中で数か月程度は感染力が衰えず、浄水場における通常の浄水処理で完全に除去することは困難とされており、塩素消毒にも抵抗性を示します。したがって、HIV 感染者をはじめとする免疫機能低下者は、日常生活の上で生ものや煮沸消毒されていない水道水の摂取などには注意が必要です。

- 11 侵襲性インフルエンザ菌感染症:3件の報告(20歳代、60歳代、80歳代)がありました。
- 12 侵襲性肺炎球菌感染症:1件の幼児の報告がありました。予防接種歴は確認できませんでした。
- 13 水痘(入院例に限る):40歳代(予防接種歴なし)の届出が1件ありました。
- 14 梅毒:5件の報告(早期顕症梅毒 期2件(50歳代男性、30歳代女性)、早期顕症梅毒 期1件(40歳代男性)、先天梅毒1件、無症候期1件(20歳代女性)の報告がありました。感染経路では、国内での異性間的接触2件、同性間性的接触1件、母子感染1件、針等の鋭利なものの刺入による感染1件でした。
- 15 風しん:幼児の臨床診断例が1件(ワクチン接種歴1回有り)の報告がありました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。横浜市では、妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは横浜市保健所ホームページをご参照ください。

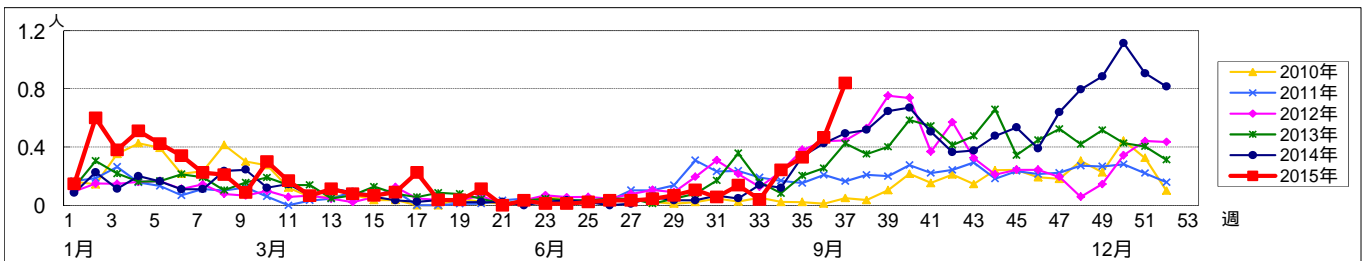
定点把握の対象

平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 35 週	8 月 24 日 ~ 30 日
第 36 週	8 月 31 日 ~ 9 月 6 日
第 37 週	9 月 7 日 ~ 13 日

- 1 手足口病:今シーズンは過去 10 年間で最大の流行となりましたが、第 37 週は市全体で定点あたり 6.68 と、流行のピークである第 29 週 15.39 からは低下しましたが、横ばい状態が続いており、引き続き警報レベル(警報発令基準値 5.00、終息基準値 2.00)です。区別でも 16 区で警報レベルです。市内の患者からは、シーズン初めにはコクサッキーウイルス A16(CA16)、途中からはコクサッキーウイルス A6(CA6)が検出されています。ウイルスの型が異なると、同じシーズンに 2 回手足口病に罹患する例もあるので注意が必要です。CA6 による手足口病では、かなり大きな水疱が四肢末端に限局せず広範囲に認められ、罹患 1~2 か月後に爪甲が脱落する症例も報告されています。



- 2 RSウイルス感染症:第 37 週は市全体で定点あたり 0.84 と急激に増加しており、注意が必要です。



- 3 性感染症:8月は、性器クラミジア感染症は男性が27件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性8件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が15件、女性が1件でした。
- 4 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第35週2.00、第36週1.33、第37週2.00と、継続して報告されています。無菌性髄膜炎の報告が35週に1件ありました。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 基幹定点月報:8月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症6件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- RS ウイルス感染症の報告が非常に増加しています。
- 今シーズン初となるインフルエンザでの学級閉鎖の患者から AH1pdm09 が検出され、分析した結果、ワクチン株と類似しており、耐性株ではありませんでした。

全数把握の対象

【10 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	3 件	急性脳炎	6 件
腸管出血性大腸菌感染症	45 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
E 型肝炎	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
A 型肝炎	2 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	2 件
デング熱	2 件	ジアルジア症	1 件
ライム病	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
レジオネラ症	13 件	侵襲性肺炎球菌感染症	5 件
アメーバ赤痢	4 件	梅毒	8 件
ウイルス性肝炎	1 件	播種性クリプトコックス症	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件

※9 月期の感染症発生動向調査委員会の調査対象期間がシルバーウィーク日程のために繰り上がったことにより、10 月期にとりあげる全数報告の対象期間が通常より長くなっています。

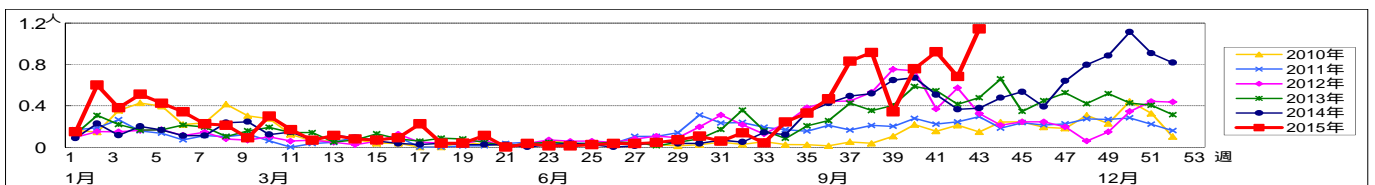
- 細菌性赤痢:** *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 3 件あり、1 件は渡航先(インド)での感染、もう 2 件は国内での感染が推定されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症:** 市内保育園で園児、職員等の間で 2 次感染が疑われる集団発生がありました。保育園など集団生活を行う場所ではより慎重な感染防止対策が求められます。手洗いや消毒の徹底に加え、特におむつ交換の際には手袋の着用や適切な場所の設定などより慎重な感染防止対策が求められます。
- E 型肝炎:** 40 歳代の国内感染例の報告が 1 件あり、原因は不明でした。国内での感染は、多くが生肉や内臓の喫食が関連しており、それらの喫食の際には十分加熱することが大切です。
- A 型肝炎:** 成人例の報告が 2 件あり、どちらも国内での感染が推定されています。近年国内感染例が増加しており注意が必要です。
- デング熱:** 2 件の報告があり、どちらも海外渡航歴(フィリピン、インド)がありました。
- ライム病:** 30 歳代の報告があり、米国ペンシルバニア州ピッツバーグでの感染が推定されています。横浜市へのライム病の届出は 2009 年の 1 件(市外在住者が横浜市医療機関を受診し届出)以来です。国立感染症研究所によると、ライム病はマダニによって媒介され、1970 年代以降、アメリカ北西部を中心に流行が続いています。欧米では現在でも年間数万人のライム病患者が発生し、さらにその報告数も年々増加していることから社会的にも重大な問題となっています。本邦ではライム病患者報告数は少ないものの、野鼠やマダニの病原体保有率は欧米並みであることから、潜在的にライム病が蔓延している可能性が高いと推測されており、注意が必要です。
- レジオネラ症:** 肺炎型 12 件、ポンティアック熱型 1 件の報告がありましたが、感染経路等は現在調査中です。
- アメーバ赤痢:** 腸管アメーバ症 4 件の報告があり、すべて国内感染例でした。2 件は経口感染、1 件は同性間性的接触による感染、残る 1 件は感染経路等不明でした。
- ウイルス性肝炎:** 1 件の B 型肝炎の報告があり、中国での性的接触による感染が推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:** 6 件の報告がありましたが、院内集団感染等の報告はありませんでした。
- 急性脳炎:** 6 件の乳幼児の報告がありました。病原体検索中です。
- クロイツフェルト・ヤコブ病:** 1 件の遺伝性プリオン病の報告がありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:** 2 件の報告がありました。1 件は 40 歳代で創傷感染が推定されており、血清型は A 型でした。もう 1 件は 70 歳代で感染経路等不明でした。

- 14 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):無症状病原体保有者 1 件、AIDS 1 件の報告がありました。どちらも国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 15 ジアルジア症:1 件の 50 歳代の報告があり、国内での経口感染が推定されています。横浜市では、ジアルジア症の届出は最近では 2013 年 2 件、2014 年 1 件でしたが、今年は既に計 4 件報告されています。ジアルジア症は、人に身近な犬でも見られる動物人共通感染症であり、日本の犬では、1.9-14.6%で感染が確認されています。◆参考:ジアルジア症について(横浜市衛生研究所)
- 16 侵襲性インフルエンザ菌感染症:1 件の報告(90 歳代)がありました。
- 17 侵襲性肺炎球菌感染症:幼児 2 件、学童 1 件、成人 2 件の報告がありました。幼児例 2 件でどちらも予防接種歴が 4 回有りましたが、他の症例では予防接種歴が確認できませんでした。
- 18 梅毒:8 件の報告(早期顕症梅毒Ⅱ期 2 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 2 件、無症候期 4 件の報告があり、感染経路では、国内での異性間性的接触 6 件、性的接触(詳細不明)1 件、感染経路感染地域等不明 1 件でした。
- 19 播種性クリプトコックス症:1 件の報告があり、ステロイド内服等による免疫不全の影響が推定されています。
- 20 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:80 歳代の報告が 1 件あり、以前からの保菌が推定されています。

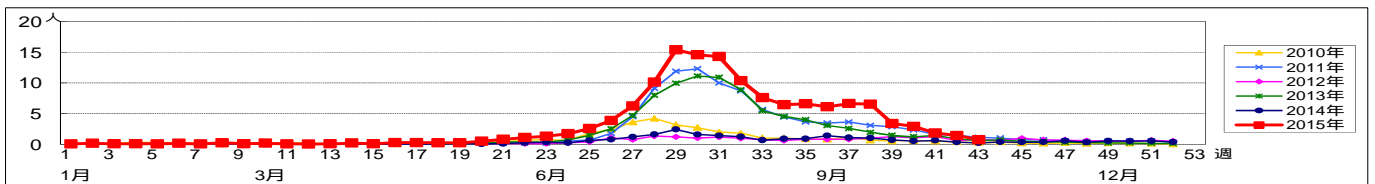
平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 38 週	9 月 14 日～20 日
第 39 週	9 月 21 日～27 日
第 40 週	9 月 28 日～10 月 4 日
第 41 週	10 月 5 日～11 日
第 42 週	10 月 12 日～18 日
第 43 週	10 月 19 日～25 日

定点把握の対象

- 1 RS ウイルス感染症:第 43 週は市全体で定点あたり 1.14 と、横浜市中区で感染症発生動向調査を始めて以来もっとも多い報告でした。今後も増加が予想されるため、注意が必要です。



- 2 手足口病:第 43 週は市全体で定点あたり 0.75 と落ち着いています。ただ、区別では中区で 2.67 と警報レベル(警報発令基準値 5.00、終息基準値 2.00)が続いています。



- 3 感染性胃腸炎:第 43 週は市全体で定点あたり 3.19 と僅かに増加傾向です。今シーズンは、これまで検出例の少ない遺伝子型(GⅡ.17)のノロウイルスの流行が危惧されており、厚生労働省が注意喚起しています。まだ今シーズンの市内における GⅡ.17 の検出はありません。GⅡ.17 はノロウイルス迅速診断検査キットでの検出感度が低いことが報告されており、注意が必要です。
- 4 インフルエンザ:第 43 週は市全体で定点あたり 0.25 ですが、第 43 週に今シーズン初めての学級閉鎖が報告されており、AH1pdm09 が検出されました。また、市内病原体定点からも AH1pdm09 が検出されており、遺伝子解析の結果はどちらも 3 月にインドで流行した株と類似していました。ワクチン株との抗原性解析(HI 試験)ではすべて同等～1 管差(一般的に 2 管差(HI 価 4 倍)以内でワクチン株と類似していると言われています。)でした。耐性株はありませんでした。
- 5 性感染症:9 月は、性器クラミジア感染症は男性が 14 件、女性が 9 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 5 件、女性が 2 件です。尖圭コンジローマは男性 6 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 15 件、女性が 0 件でした。
- 6 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第 38 週 2.00、第 39 週 1.00、第 40 週 1.00、第 41 週 2.33、第 42 週 2.00、第 43 週 2.00 と、継続して報告されています。無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 基幹定点月報:9 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 2 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- 感染性胃腸炎の報告が増加しており、今シーズンも市内からノロウイルス G .17 型が検出されています。
- 咽頭結膜熱、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎などの報告が多くなっています。

全数把握の対象

【11 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	急性脳炎	1 件
腸管出血性大腸菌感染症	8 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
E 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	2 件
デング熱	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	8 件
レジオネラ症	3 件	水痘(入院例に限る)	2 件
アメーバ赤痢	5 件	梅毒	6 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2 件		

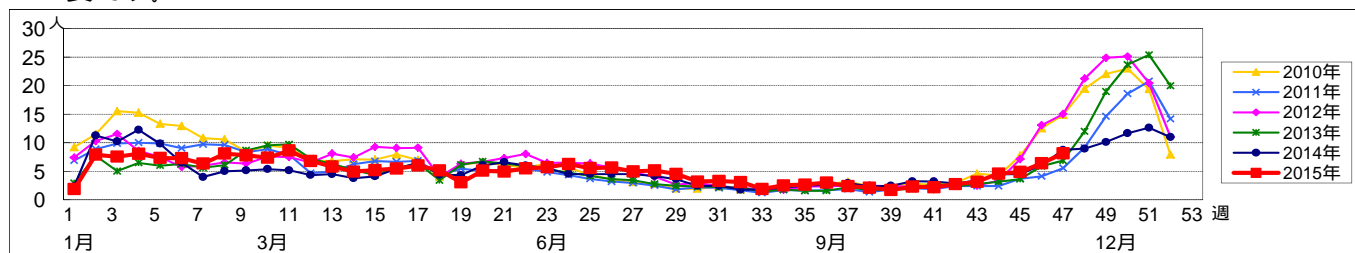
- 1 細菌性赤痢: *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 1 件あり、渡航先(インド)での感染が推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: 海外での感染事例がありました。海外においても動物との接触や肉の摂取など、十分に気をつける必要があります。
- 3 E 型肝炎: 1 件の報告があり、原因は不明でした。国内での感染は、多くが生肉や内臓の喫食が関連しており、それらの喫食の際には十分加熱することが大切です。
- 4 デング熱: 1 件の報告があり、海外渡航歴(インドネシア)がありました。
- 5 レジオネラ症: 肺炎型 3 件の報告がありましたが、感染経路等は現在調査中です。
- 6 アメーバ赤痢: 5 件の報告があり、1 件は国内での同性間性的接触による感染、2 件は国内での感染で感染経路不明、1 件は中国での経口感染、1 件は感染経路感染地域等不明でした。
- 7 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 2 件の報告がありましたが、院内集団感染等の報告はありませんでした。
- 8 急性脳炎: 1 件の乳児の報告がありました。病原体検索中です。
- 9 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 1 件の 80 歳代の報告があり、感染経路等不明でした。
- 10 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 1 件(国内での同性間性的接触による感染)、AIDS 1 件(感染経路感染地域等不明)の報告がありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児 1 件、成人 7 件の報告がありました。幼児例では予防接種歴が 1 回(詳細不明)ありましたが、成人例では予防接種歴が確認できませんでした。
- 12 水痘(入院例に限る): 成人の届出が 2 件あり、どちらも臨床診断例でした。
- 13 梅毒: 6 件の報告(早期顕症梅毒 期 3 件、早期顕症梅毒 期 2 件、無症候期 1 件の報告があり、すべて国内感染例でした。感染経路では、異性間性的接触 3 件、同性間性的接触 1 件、性的接触(詳細不明) 1 件、感染経路感染地域等不明 1 件でした。

定点把握の対象

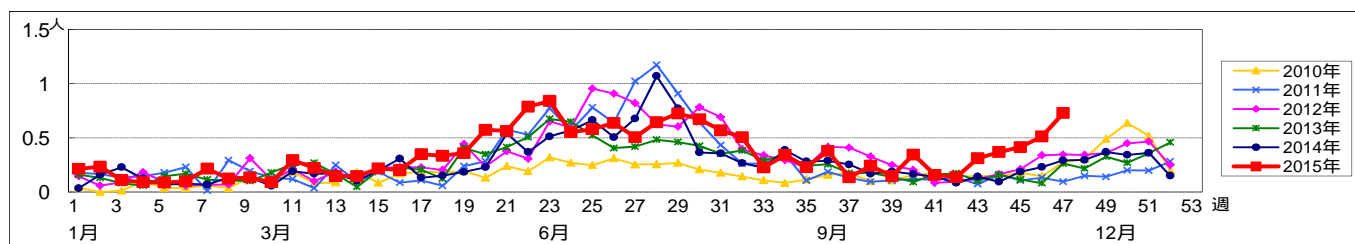
平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 44 週	10 月 26 日 ~ 11 月 1 日
第 45 週	11 月 2 日 ~ 8 日
第 46 週	11 月 9 日 ~ 15 日
第 47 週	11 月 16 日 ~ 22 日

- 1 感染性胃腸炎: 第 47 週は市全体で定点あたり 8.12 と増加傾向です。区別では都筑区で既に 20.50 と警報発令基準値(定点あたり 20.00)を上回っており注意が必要です。今シーズンは、いままでノロウイルスの主流の

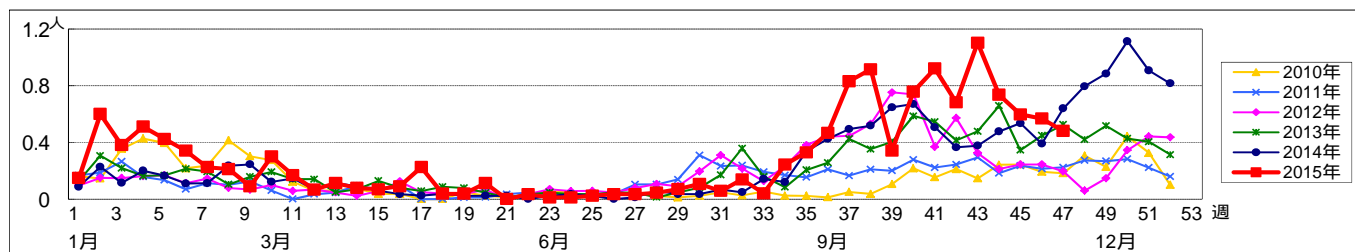
タイプであったG .4にかわり、G .17のノロウイルスの流行が危惧されていることから、厚生労働省が注意喚起しています。市内でも、昨シーズンは2015年1月頃から、いままで多く検出されていたG .4にかわり、G .17が検出されるようになりました。今シーズンもまだ全体の報告数は少ないものの、G .17が検出されています。G .17はノロウイルス迅速診断検査キットでの検出感度が低いことが報告されており、注意が必要です。



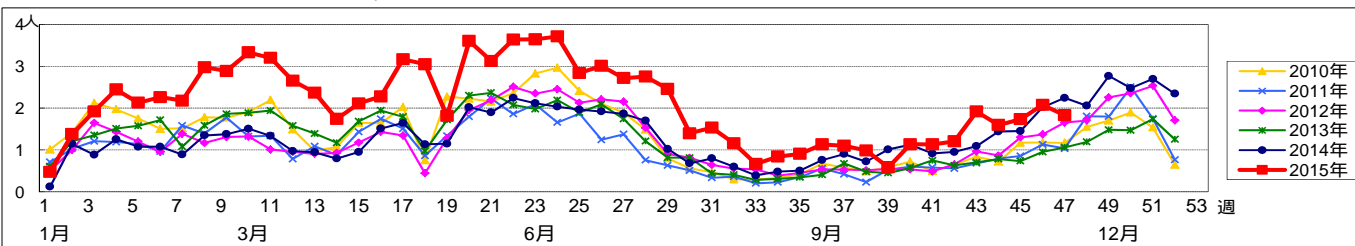
2 咽頭結膜熱:第47週は市全体で定点あたり0.73と増加傾向です。この時期では2010年以降最も報告が多くなっています。区別では磯子区で11.50と警報発令基準値(定点あたり3.00)を大きく上回っており、注意が必要です。



3 RSウイルス感染症:第47週は市全体で定点あたり0.48と、今年最も多かった第43週1.10より減少しましたが、まだ例年に比べて多い水準で推移しています。



4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第47週は市全体で定点あたり1.83と増加傾向です。例年年末にかけて増加するので注意が必要です。



5 インフルエンザ:第47週は市全体で定点あたり0.18と落ち着いています。ただ、学級閉鎖も報告されており、早めの予防接種が重要です。

6 性感染症:10月は、性器クラミジア感染症は男性が29件、女性が30件でした。性器ヘルペス感染症は男性が1件、女性が4件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が7件、女性が1件でした。

7 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第44週1.25、第45週1.25、第46週3.68、第47週1.50と、報告が多い状態が続いています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)が第45週~47週まで1件ずつ報告されています。細菌性髄膜炎が第45週に1件、第46週に1件報告されています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

8 基幹定点月報:10月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症8件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- 感染性胃腸炎が流行しており、保育園、小学校や高齢者施設での集団感染の報告もありますので注意が必要です。今シーズンも市内からノロウイルス G .17 型が検出されています。
- 咽頭結膜熱、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎などの報告が多くなっています。

全数把握の対象

【12 月期に報告された全数把握疾患】

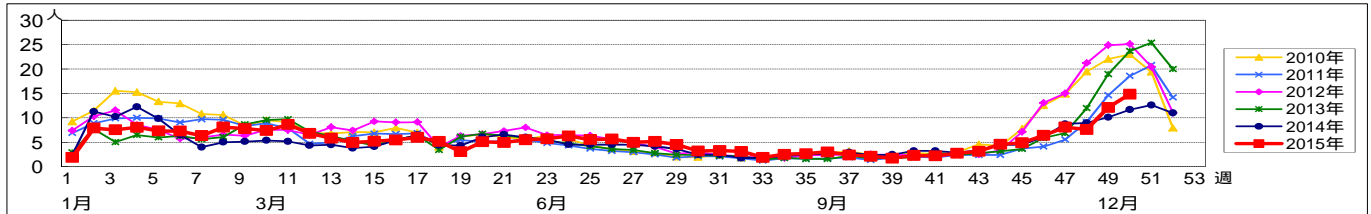
腸管出血性大腸菌感染症	3 件	急性脳炎	3 件
パラチフス	1 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	1 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
デング熱	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	7 件
レジオネラ症	4 件	梅毒	5 件
アメーバ赤痢	3 件	播種性クリプトコックス症	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 件		

- 腸管出血性大腸菌感染症: 3 件の報告があり、うち 1 件は同一家族内での感染事例でした。2 次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
- パラチフス: 1 件の報告があり、海外(インドネシアまたはフィリピン)での経口感染が推定されています。
- A 型肝炎: 1 件の報告があり、海外(フィリピン(セブ島))での経口感染が推定されています。
- デング熱: 1 件の報告があり、海外(スリランカ(コロンボ))での感染が推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型 4 件の報告がありましたが、明確な感染経路等は不明でした。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 3 件の報告があり、1 件は国内での同性間性的接触による感染、もう 1 件は国内での異性間性的接触(性交及び経口)による感染、残るもう 1 件は東南アジアでの経口感染でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 4 件の報告がありました。
- 急性脳炎: 3 件の報告がありました。1 件は 70 歳代で、検査キットにてインフルエンザ A 型が検出されています。他の 2 件(新生児及び幼児)は病原体不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 1 件(国内での同性間及び異性間性的接触による感染)の報告がありました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 1 件の 60 歳代の報告がありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児 1 件、成人 6 件の報告がありました。幼児例では予防接種歴が 4 回(7 価)ありましたが、成人例では予防接種歴が確認できませんでした。
- 梅毒: 5 件の報告(早期顕症梅毒 期 1 件、早期顕症梅毒 期 1 件、無症候期 3 件)があり、すべて国内感染例でした。感染経路では、異性間性的接触 4 件、同性間性的接触 1 件でした。
- 播種性クリプトコックス症: 1 件の報告があり、感染原因として慢性腎不全による免疫不全が推定されています。

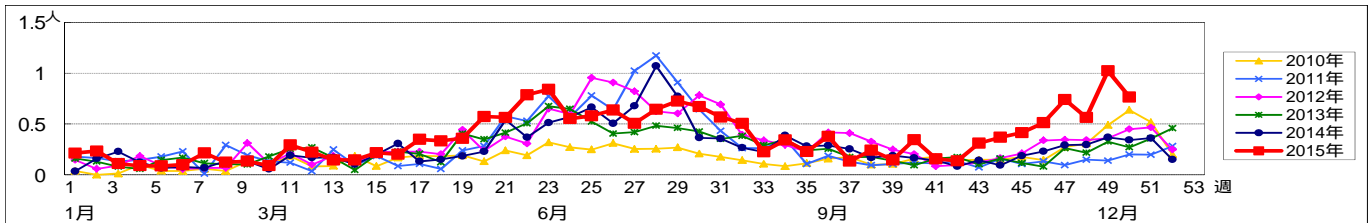
定点把握の対象

平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 48 週	11 月 23 日 ~ 29 日
第 49 週	11 月 30 日 ~ 12 月 6 日
第 50 週	12 月 7 日 ~ 13 日

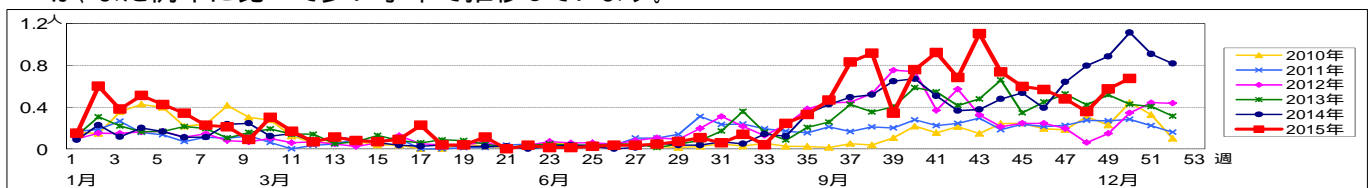
- 1 **感染性胃腸炎**: 第 50 週は市全体で定点あたり 14.85 と増加傾向です。区別では都筑区 35.50、鶴見区 22.14、中区 20.50 で警報発令基準値(定点あたり 20.00)を上回っており注意が必要です。今シーズンは、これまでノロウイルスの主流のタイプであった G .4 にかわり、G .17 のノロウイルスの流行が危惧されていることから、厚生労働省が注意喚起しています。市内でも、昨シーズンは 2015 年 1 月頃から、これまで多く検出されていた G .4 にかわり、G .17 が検出されるようになりました。今シーズンもまだ全体の報告数は少ないものの、G .17 が検出されています。G .17 はノロウイルス迅速診断検査キットでの検出感度が低いことが報告されており、注意が必要です。 参考: 感染症臨時情報「感染性胃腸炎」(横浜市感染症情報センター)



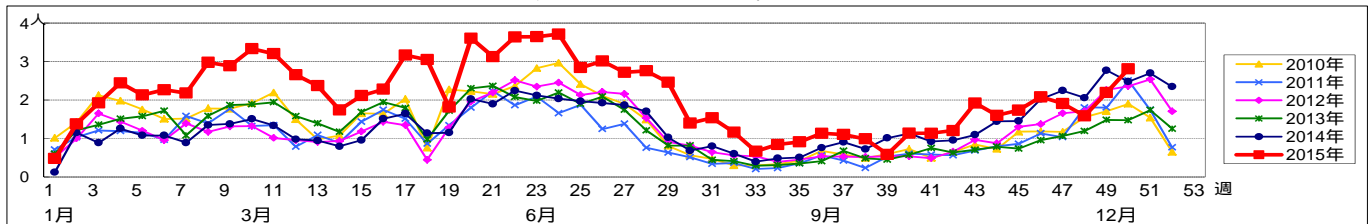
- 2 **咽頭結膜熱**: 第 50 週は市全体で定点あたり 0.76 と、この時期では 2010 年以降最も報告が多くなっています。



- 3 **RS ウイルス感染症**: 第 50 週は市全体で定点あたり 0.67 と、今年最も多かった第 43 週 1.10 より減少しましたが、まだ例年に比べて多い水準で推移しています。

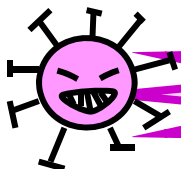


- 4 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 50 週は市全体で定点あたり 2.81 と増加傾向です。区別では磯子区 9.00 で警報発令基準値 8.00 を上回っており、注意が必要です。



- 5 **インフルエンザ**: 第 50 週は市全体で定点あたり 0.17 と落ち着いています。ただ、学級閉鎖も報告されており、早めの予防接種が重要です。
- 6 **性感染症**: 11 月は、性器クラミジア感染症は男性が 24 件、女性が 10 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 4 件、女性が 11 件です。尖圭コンジローマは男性 6 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 17 件、女性が 1 件でした。
- 7 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 48 週 2.00、第 49 週 2.00、第 50 週 0.00 と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)が第 48 週 0.00、第 49 週 0.33、第 50 週 1.00 と、この冬シーズンでは第 45 週にはじめて報告されて以来、報告が寄せられています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 8 **基幹定点月報**: 11 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 5 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>













感染症に気をつけよう!

2015年【1月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明 <small>【 】は解説付き既刊号</small>
インフルエンザ	 流行	 増加	流行が急激に拡大して、昨年より5週間早く12月下旬に注意報が出ました。すでに警報レベルの区もあります。【11月号】
RSウイルス感染症	 流行	 横ばい	2009年以來最も増えています。乳幼児や免疫力が弱いと重症化し易いです。予防には手洗いが大事です。【10月号】
感染性胃腸炎	 やや流行	 やや増加	例年より少ないですが、集団感染もあり、今後も増加が予想されます。手洗い・消毒・加熱で防ぎましょう。【12月号】
伝染性紅斑 (リンゴ病)	 やや流行	 やや増加	万一、妊婦が感染したら、医師に相談し胎児の状態をよく調べることが重要です。予防には手洗いが大切です。【6月号】
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	 やや流行	 やや増加	風邪に似ていますが、腎炎等の合併症もみられ、抗生物質が必要な感染症です。手洗いで予防しましょう。

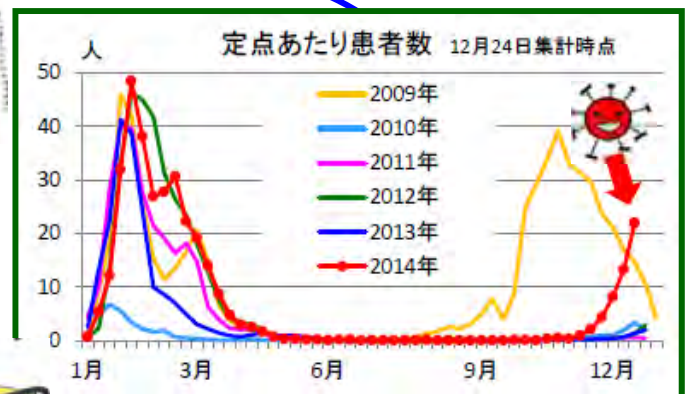


今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

患者の年齢をみると20歳未満の増加が大変目立ち、中でも6~9歳が最も多くなっています。



重い合併症であるインフルエンザ脳症が今シーズン初めて報告されました。入院例も大幅に増加していて重症化に注意が必要です。



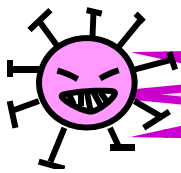
もし症状が出てしまったら他の人にうつさないよう、



咳エチケットを守り
早目に受診しましょう。



横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】







感染症に気をつけよう!

2015年【2月号】



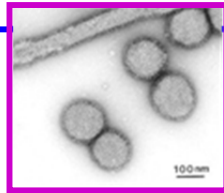
横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況	説明
インフルエンザ	 流行  増加	警報が昨年より4週間早く出ました。年明け後に減りましたが、再び増加していて、引き続き注意が必要です。【1月号】
伝染性紅斑 (リンゴ病)	 流行  横ばい	万一、妊婦が感染したら、医師に相談し胎児の状態をよく調べるのが重要です。予防には手洗いが大切です。【6月号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



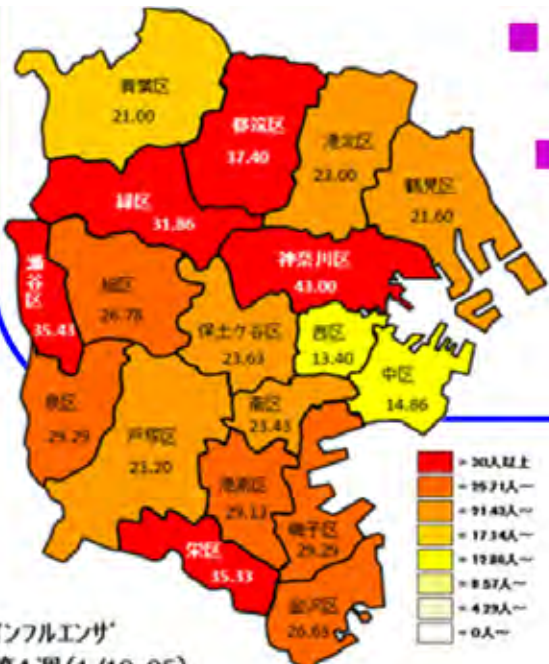
地図の色が濃い地域ほど、患者が多くなっています。市内のどの区でも、まだ流行が続いていることが分かります。



国立感染症研究所 HP より

流行は子どもを中心に再び広がっていて、学級閉鎖も増加しています。脳炎など重症例の報告も増えています。

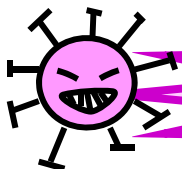
もし症状が出てしまったら他の人にうつさないよう、咳エチケットを守り早目に受診しましょう。



- 抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす可能性があります。
- 学校等については、「症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は休むこと」とされています。かかりつけ医に相談しましょう。



横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】







感染症に気をつけよう!

2015年【3月号】

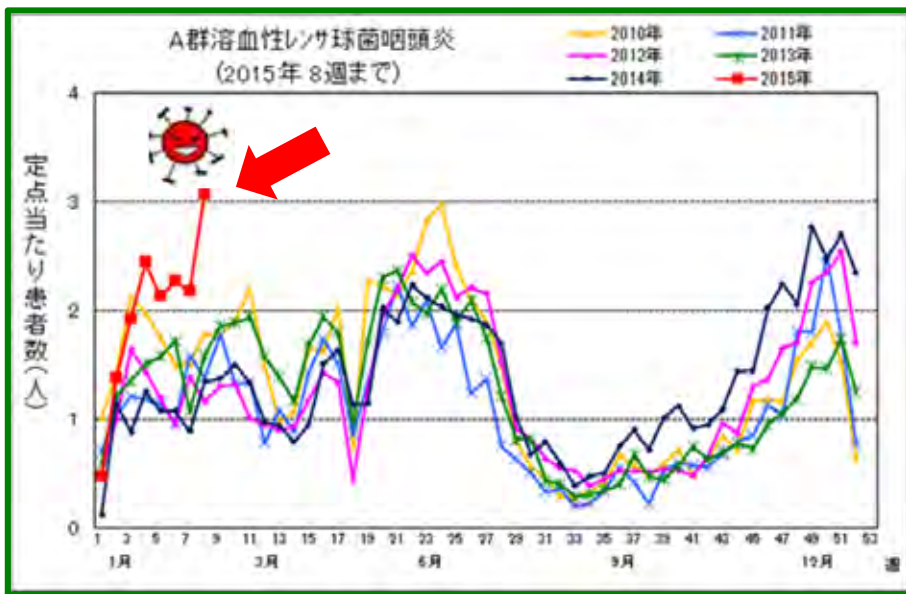


横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明 【 】は解説付き既刊号
インフルエンザ	 流行	 減少	昨年より6週早く警報解除レベルを下回りました。例年と違いシーズン後半でも、B型があまり増えていません。【2月号】
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	 やや流行	 やや増加	かぜに似ていますが、腎炎等の合併症もみられ抗生物質が必要になります。報告が増加していて注意が必要です。



今、気をつけたい感染症 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



例年、冬と春から初夏にかけて流行のピークがあり、幼稚園児から小学生で多く報告されます。今の流行は、この6年間で最も多くなっています。

発熱とのどの痛みで始まり、吐き気がみられる例もあります。舌が赤くぶつぶつしてイチゴの様になります。



写真1. 典型的な莓舌
国立感染症研究所 HP より

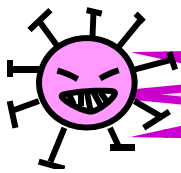
治療には抗生物質を使います。熱が下がり、のどの痛みがなくなっても、途中で服用を止めると、腎炎などの合併症を起こす場合があります。医師の指示通りに最後まで飲み切ることが大切です。

患者ののどからの分泌物等に含まれている細菌によって感染するので、予防には患者との接触を避け、手洗い・うがいをしっかり行いましょう。ワクチンはありません。



早目に医療機関を受診しましょう!





感染症に気をつけよう!





2015年【4月号】

横浜市内の感染症



流行状況



感染症	流行状況		説明 【】は解説付き既刊号
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	 やや流行	 横ばい	かぜに似ていますが、腎炎等の合併症もみられ、治療には抗生物質が必要になります。早目に受診しましょう。【3月号】
ばいどく 梅毒	 散発	 増加	全国的に増加していて、国がホームページで注意を呼びかけています。市内でも男女とも増加傾向で注意が必要です。

今、気をつけたい感染症



E型肝炎

E型肝炎ウイルスの感染が原因です。国内での感染の多くは、ブタやイノシシなどの肉を、生あるいは加熱不十分なままで食べたことが原因です。



生肉は危険!

特に、ブタは高い確率でE型肝炎ウイルスに感染していることが分かっています。市内でもブタの生レバーを食べて感染した例が起きています。



主な症状は発熱・悪心・腹痛や肝臓の異常で、潜伏期間は6週間程度と長いです。

妊婦が感染すると非常に重い症状になりやすいとの報告があります。また、高齢者ほど重症化しやすいとされています。命に関わるケースもあります。

しっかり加熱!



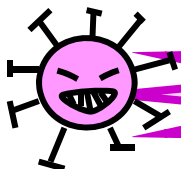
このウイルスは熱によって死ぬので、肉を中心部までよく加熱すれば、感染を防ぐことが可能です。

腸管出血性大腸菌など他の食中毒菌も熱に弱いので、肉を安心して食べるには、調理する時の加熱がとても重要です。

横浜市衛生研究所

感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】







感染症に気をつけよう!

2015年【5月号】



横浜市内の感染症 流行状況

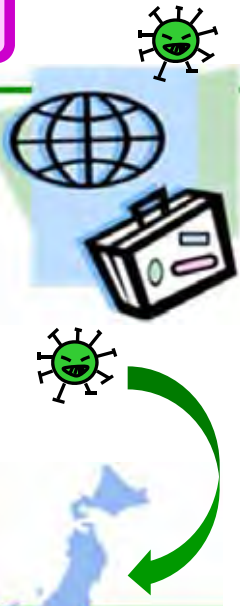
感染症	流行状況	説明
海外での感染症	 散発	 横ばい
		細菌性赤痢やデング熱など、海外での感染例がみられます。渡航先の流行情報に注意し、旅行の前後には体調をチェックしましょう。ワクチンで予防できる病気もあります。【8月号】

今、気をつけたい感染症 麻しん(はしか)

世界保健機関(WHO)は3月下旬、日本が麻しんの排除を達成したと認めました。しかしこれは、いわゆる国内に土着していた麻しんウイルスによる感染が無かった(3年間)、という意味で、日本から麻しんの患者が出なくなった訳ではありません。

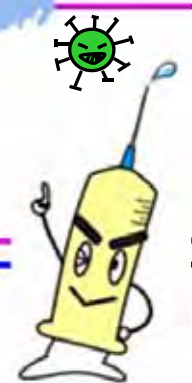
麻しんは海外では流行している地域も多く、渡航中に感染する危険性があります。市内でも昨年には11件報告されていて、全てがフィリピンやベトナム等の海外で流行している種類のウイルスによるものでした。

海外で感染した人から、国内で別の人につつたケースもありました。また、患者の多くは、ワクチンを受けたことが確認できませんでした。



感染力がとても強い上、重い合併症を起こして、命に関わる場合もある麻しんですが、**2回の予防接種で防ぐことが可能です。**

ワクチンを受けた人は自分だけでなく、家族や学校等、**周囲の人**も麻しんから守ることができます。



気づかないうちに身近なところへ、**海外から麻しんウイルスが持ち込まれている**かもしれません。

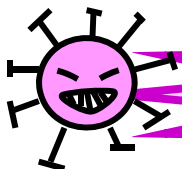
定期接種の対象者はもちろん、その他の人も、医師に相談して、麻しん風しん混合(MR)ワクチンを2回受けましょう。



横浜市衛生研究所

感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】









感染症に気をつけよう!

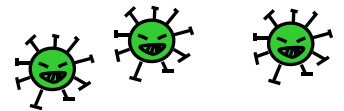
2015年【6月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明 【 】は解説付き既刊号等
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	 流行	 増加	幼稚園児から小学生に多く、かぜの様ですが合併症もみられ、抗生物質で治療します。早目に受診しましょう。【3月号】
夏に流行 する感染症	 やや 流行	 やや 増加	腸管出血性大腸菌感染症 (O157 等) 【7月号】 咽頭結膜熱 (プール熱) 【チラシ】 手足口病 【8月号】 …… などは、例年、夏にピークになります。日ごろから、手洗いをしっかり行いましょう。

今、気をつけたい感染症 風しん



風しんは、まだ発生しています!

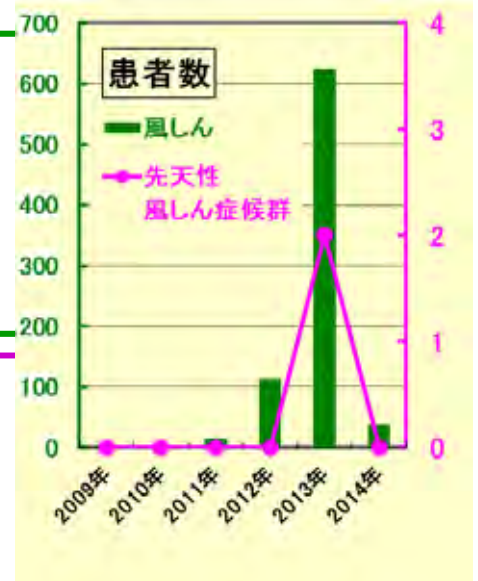
妊婦(特に妊娠初期)が風しんに感染すると、赤ちゃんに影響(白内障・心疾患・難聴など)が出る可能性があります。

市内でも風しんの発生に伴い、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれています。

先天性風しん症候群を予防しましょう!

風しんの流行をおさえ先天性風しん症候群を防ぐためには、予防接種が有効です。女性だけでなく、特に、**流行の中心**である**20~40代の男性**がワクチンを受けることが**重要**です。

麻しん予防にも役立つ、麻しん風しん混合(MR)ワクチンをお勧めします。



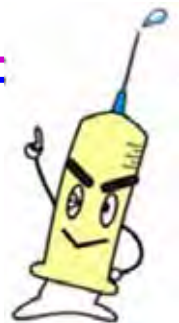
風しんの予防接種と抗体検査が助成されています!

【対象】 19歳以上の横浜市民で

「妊娠を希望されている女性とパートナー」「妊婦のパートナー」

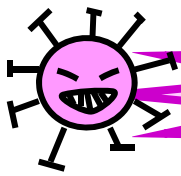
【期間】 平成28年3月31日まで

【問合せ先】 横浜市ワクチン相談窓口 671-4183



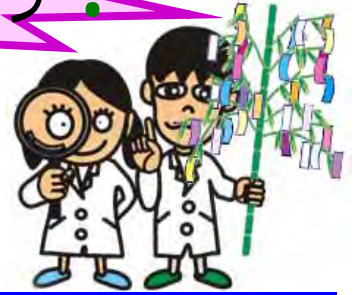
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】










感染症に気をつけよう!

2015年【7月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況	説明
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	 流行 → 横ばい	4～7歳の報告が多いです。かぜに似た症状ですが、合併症もみられ注意が必要です。早目に受診しましょう。【3月号】
夏に流行する感染症	 やや流行 → やや増加	咽頭結膜熱（プール熱）【チラシ】 手足口病【8月号】 …… などは、例年、夏がピークです。 ヘルパンギーナ   手洗いを正しく行う習慣  をつけて、予防しましょう。

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

人から人へも感染

O157(オーイチゴナ)など病原性大腸菌に汚染された物を口にすることが原因です。生肉による感染が話題になりましたが、食物から以外に、
感染した人から人へもうつります。

症状は、腹痛・下痢・血便などです。乳幼児や高齢者では重症になりやすく、命に関わるケースもあります。



家庭でも手洗い・清潔

市内では5月に4件、6月に6件の報告があり、家族内で感染した例もみられました。家庭内での感染を防ぐには、手洗いが重要です。

また、下痢の症状がある人は、他の人とタオルを別にしましょう。トイレはいつも清潔にして、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチ等、手でさわる所は、特にていねいに掃除しましょう。



夏に要注意

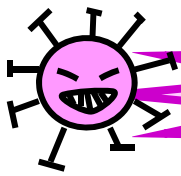
これから夏にかけて例年報告が増えます。調理する時の食材や器具の加熱・洗浄にも十分に注意して、予防しましょう。

もし症状が出てしまったら、自分の判断で下痢止め等の薬を飲まないで、早目に受診してください。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】





感染症に気をつけよう!

2015年【8月号】

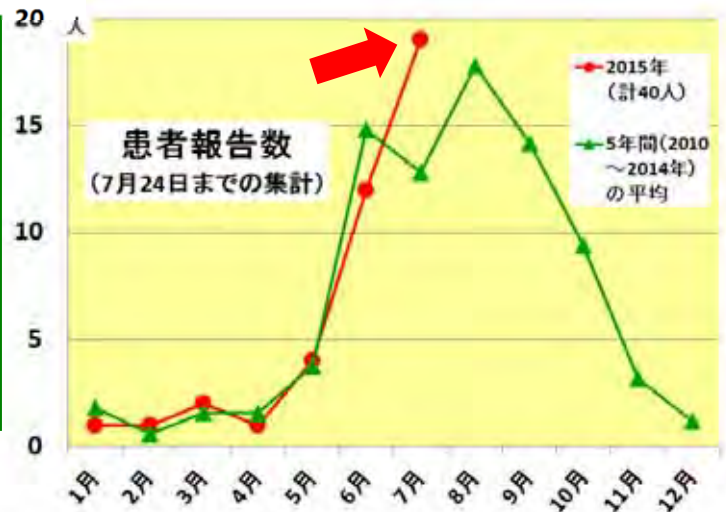


横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況	説明	【 】は解説付き既刊号
手足口病	大流行 横ばい	10年間で最大の流行で、5歳以下が多いです。咳のしぶきや便からうつるので、予防には手洗いが重要です。	【8月号】
腸管出血性大腸菌感染症	流行 増加	O157(オーイチゴナ)等に汚染された物を口にすることで感染します。乳幼児や高齢者では重症になりやすいです。	【7月号】
ヘルパンギーナ	流行 横ばい	乳幼児に多い夏かぜで、突然発熱しのどに水ぶくれができて痛みます。患者のオムツ交換後など、よく手を洗いましょう。	

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

- 市内では、6月から急に増加し、7月は例年を上回る報告数でした。
- 中には、溶血性尿毒症候群(HUS)という、非常に重い子どものケースもありました。これは加熱用の牛レバーを家庭で生のまま食べたことが原因です。
- 家族内での感染も起きています。



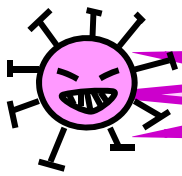
肉は十分に加熱しましょう。
中心部まで75℃で1分以上が必要です。



家庭での感染防止には手洗いがポイントです。
トイレも清潔に保ちましょう。

これから10月頃までは、毎年、報告が多くなっています。
食べ物による感染と、人から人への感染を、しっかり防ぎましょう。









感染症に気をつけよう!

2015年【9月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明 【 】は解説付き既刊号
手足口病	 流行	 減少	ピークが過ぎても、引き続き注意してください。咳のしぶきや便からうつるので、予防には手洗いが重要です。【2013.8号】
腸管出血性大腸菌感染症	 流行	 横ばい	O157(オーイチゴナ)等に汚染された物を口にすることで感染します。例年10月頃までは報告が多いです。【2015.8号】

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症



市内の焼肉店でO157による食中毒が発生しました!

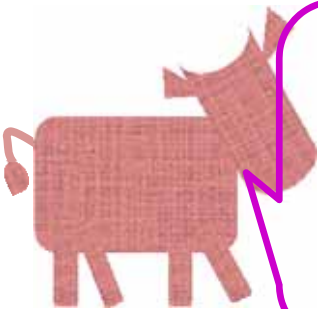
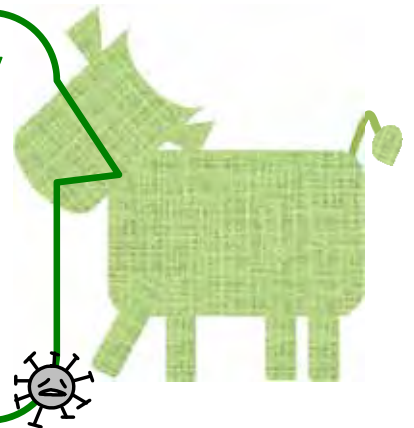
O157に汚染された物を食べると感染します。

生肉に使ったはしには、菌が付いているかもしれません。


生肉と焼いた肉を扱うはしは、使い分けましょう。

この菌は熱に弱いので、肉は中心部まで75℃1分間以上、

よく加熱すれば安心して食べられます。



家族内での感染も起きています!

O157は食べ物からだけでなく、感染した人の便で汚れた物を介して、他の人へもうつるため、家庭での感染予防は  です。

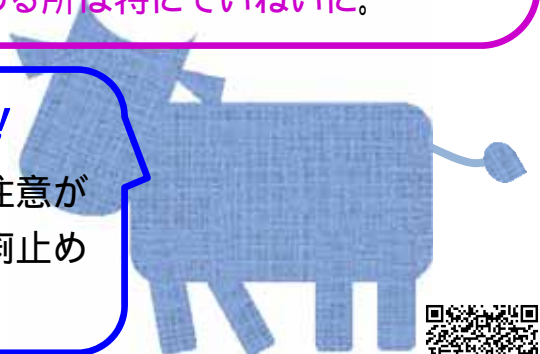
下痢をしていたら、タオルは他の人とは別にしましょう。

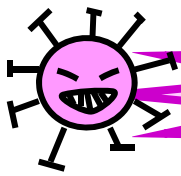
トイレの掃除は、ドアノブなど手でさわる所は特に  いていないに。



乳幼児や高齢者は重症になりやすいです!

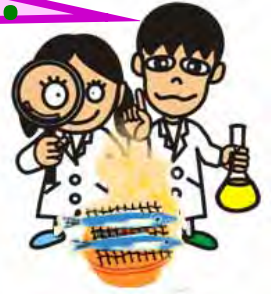
食べ物による感染 と 人から人への感染 の、両方に注意が必要です。もし症状が出てしまったら、自己判断で下痢止め薬を飲まないで、早目に受診してください。



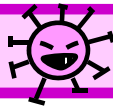


感染症に気をつけよう!

2015年【10月号】



横浜市内の感染症 流行状況



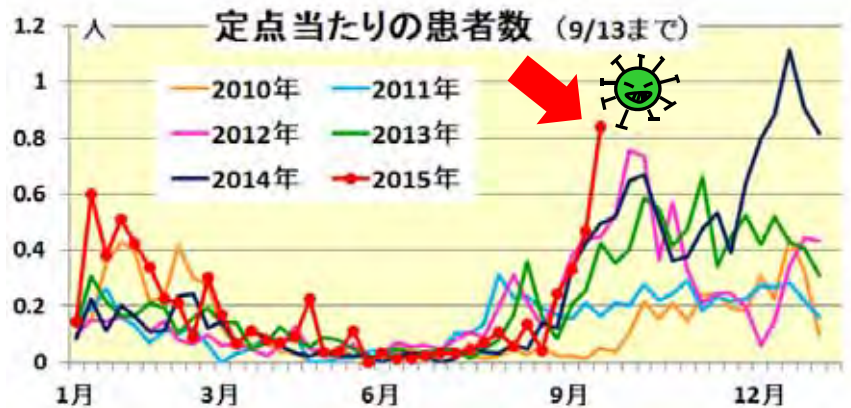
感染症	流行状況		説明 【 】は解説付き既刊号
手足口病	流行	横ばい	ピークを過ぎましたが、警報レベルが続いています。2回かかる例もあります。手洗いで予防しましょう。【2013.8号】
RSウイルス感染症	流行	増加	急激に増加しています。冬場の風邪のひとつですが、重症化することもあり、注意が必要です。【2014.10号】

今、気をつけたい感染症 RSウイルス感染症

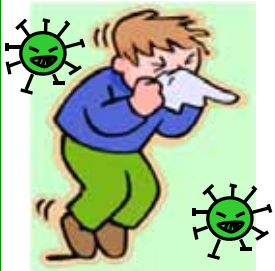


どんな病気?

RS(アールエス)ウイルスの感染が原因です。主な症状は、発熱・鼻水・咳などです。通常は1週間位で治りますが、乳幼児や高齢者、免疫の弱っている人等では、重症になるケースもあります。



感染のしかたは?



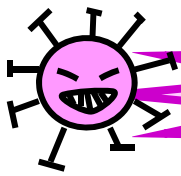
患者の鼻水や咳で飛び散る飛沫(しぶき)には、ウイルスが含まれています。これらで汚れた手や物を介したり、患者の近くにいて飛沫を吸い込んだりして、ウイルスが目・のど・鼻の粘膜に付着して感染します。特に、家族の間で感染が広がりやすいです。また、高齢者施設でも集団発生が起こることがあります。

予防方法は?

今、RSウイルス感染症の報告が、市内で急激に増えています。例年、冬にピークがあり、これから来年にかけて流行が続くと考えられます。

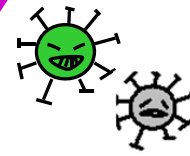
年長の子供や大人も、繰り返しかかる場合があります。他の風邪を予防するためにも、正しい手洗いの習慣が一番大切です。





感染症に気をつけよう!

2015年【11月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況	説明
RSウイルス感染症	大流行 急増	今後も増加が予想されます。重症化する例や、繰り返しかかる場合もあります。手洗いで予防しましょう。【2015.10号】
インフルエンザ	散発 やや増加	10月下旬には学級閉鎖が報告されています。予防接種や手洗い、十分な休養などで、流行に備えましょう。【2014.11号】

今、気をつけたい感染症 ノロウイルスによる感染性胃腸炎

どんな病気?

感染性胃腸炎はノロウイルスなどの感染が原因で、主な症状は下痢・腹痛・吐き気・嘔吐等です。例年、冬に流行します。

今シーズンは新しい種類のノロウイルス(遺伝子型 G .17 の変異型)によって、大きな流行が起これと予想されており、国が全国的に注意を呼びかけています。

市内でも同様の恐れがあり、注意が必要です。



感染のしかたは?

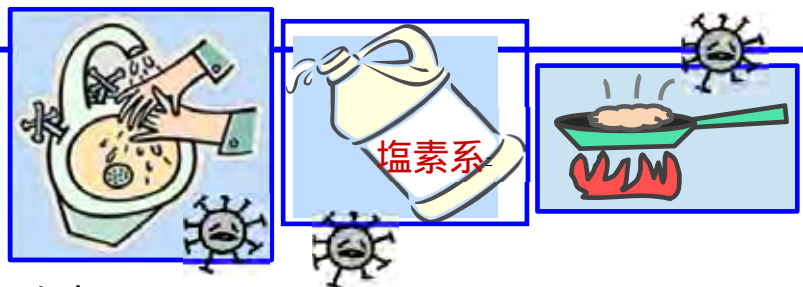
ノロウイルスは患者の便や吐いた物に含まれていて、手や食物を介して、わずかな量のウイルスが体内に入っただけで感染します。

症状が出て回復した後や、感染しても症状が出なかったケース(不顕性感染)でも、便の中にウイルスが排出されていて、感染が広がる場合があります。

保育園や高齢者施設での集団発生も、毎年のように報告されています。

予防方法は?

正しい手洗いを習慣にしておくことが大切です。特に、患者の便や嘔吐物を処理する時は、適切に行いましょう。

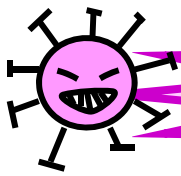


消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使います。

また、食品の調理では中心部まで十分に加熱(85~90℃で90秒以上)しましょう。

なお、ワクチンはありません。





感染症に気をつけよう!

2015年【12月号】

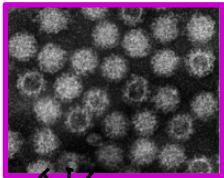


横浜市内の感染症 流行状況



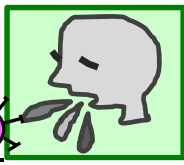
感染症	流行状況		説明 【解説付き既刊号等】
感染性胃腸炎	やや流行	増加	ノロウイルスなどの感染が原因で、主な症状は嘔吐・下痢等です。下の様に、この冬は特に注意が必要です。【'15.11号】
咽頭結膜熱(プール熱)	流行	増加	今の時期としては大変多いです。鼻水・目やに等からうつります。手洗いを習慣づけ、タオルは専用にしましょう。【チラシ】
RSウイルス感染症	やや流行	やや減少	冬場の風邪の一つですが、繰り返しかかったり重症になる例もあります。予防には、正しい手洗いが大切です。【'15.10号】
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	やや流行	やや増加	風邪に似た症状ですが、腎炎等の合併症もみられます。例年、年末にかけて増えるので注意しましょう。【'15.3号】

今、気をつけたい感染症 ノロウイルスによる感染性胃腸炎

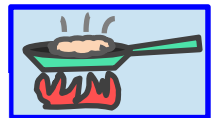


今シーズンは、ほとんどの人が免疫を持っていない、新しい種類のノロウイルス(遺伝子型 G .17 の変異型)が、全国的に流行の中心になると言われています。市内でも過去に、**変異型のウイルスによる大流行**が起きているため、十分な注意が必要です。

ノロウイルスは患者の便や嘔吐物(吐いた物)に含まれていて、手や食物を介して、ごく



少量のウイルスが口から体内に入っただけで感染します。嘔吐物が乾燥するとノロウイルスが空気中にたどよい、これを吸うことでも感染します。



症状が治った後や、感染しても症状が出なかったケース(不顕性感染)でも、便の中にウイルスが排出されています。保育園等での**集団発生**も起きています。

予防には、正しい手洗いが重要です。特に、患者の便や嘔吐物を処理する時には、感染を広げてしまう恐れがあるので、適切に行いましょう。消毒には**次亜塩素酸ナトリウム**を使います。また、食品の調理では、**中心部までよく加熱**(85~90 で90秒以上)すれば安心です。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】



横浜市感染症発生動向調査事業概要
平成 27 年(2015 年)

横浜市健康福祉局 衛生研究所 感染症・疫学情報課
平成 28 年 12 月発行

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号
Tel 045(370)9237
Fax 045(370)8462

紙へリサイクル可